

会 告 目 次

「連続セミナー 93」参加申込／議事録バックナンバ申込書	色紙
研究発表会開催通知	2
第 61 回 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会	2
第 89 回 人工知能研究会	4
第 34 回 アルゴリズム研究会	5
第 93 回 計算機アーキテクチャ研究会	6
第 48 回 ハイパフォーマンスコンピューティング研究会	7
第 13 回 プログラミング—言語・基礎・実践—研究会	8
第 64 回 グラフィクスと CAD 研究会	9
第 3 回 グループウェア研究会	10
平成 6 年度研究会等の新設提案について	11
「音楽情報科学」研究グループ終了にあたって	12
「オーディオビジュアル複合情報処理」研究グループ終了にあたって	13
「グループウェア」研究グループ終了にあたって	13
大学等における一般情報処理教育の在り方に関する調査研究報告書頒布のお知らせ	14
第 47 回 全国大会予約案内	15
「マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」論文募集	17
「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム」論文募集	18
「1994 年情報学シンポジウム」論文募集	19
「DA シンポジウム '93」開催について	20
第 26 回 情報科学若手の会シンポジウム開催のご案内	22
「グラフィクスと CAD」シンポジウム開催について	24
平成 5 年度会費・論文誌購読費の納入について (お願い)	24
本会協賛等の行事案内	26
平成 5 年電気・情報関連学会連合大会の開催案内	27
日本学術会議だより	32
支部だより	34
会 議 案 内	37
教 官 募 集	38
雑 報	40
平成 5 年度役員名簿	42

研 究 発 表 会 開 催 通 知

(平成5年7月15日～8月31日)

研究会名	日 時		会 場	備 考
グラフィクスとCAD	7月15日(木) 7月16日(金)	13:30～17:30 10:00～17:00	筑 波 大	前号参照
コンピュータと教育	7月16日(金)	13:00～16:00	工 学 院 大	同 上
情 報 シ ス テ ム	7月20日(火)	13:30～17:00	同 上	同 上
データベースシステム	7月21日(水) 7月22日(木) 7月23日(金)	9:00～19:00 9:00～17:00 9:00～16:00	ホテルセントヒル 長 崎	同 上
コンピュータビジョン	7月22日(木)	10:00～16:30	岡 山 大	同 上
情 報 学 基 礎	7月26日(月)	9:30～17:00	北 大	同 上
*システムソフトウェアと オペレーティング・システム	8月18日(水)	8:45～17:45	鞆シーサイドホテル	下記参照
*人 工 知 能	8月18日(水) 8月19日(木)	9:15～17:45 8:45～10:15	同 上	同 上
*ア ル ゴ リ ズ ム	8月19日(木)	10:30～15:30	同 上	同 上
*計算機アーキテクチャ	8月19日(木) 8月20日(金)	13:30～17:45 8:45～17:45	同 上	同 上
*ハイパフォーマンス コンピューティング	8月19日(木) 8月20日(金)	15:45～17:45 8:45～17:15	同 上	同 上
*プ ロ グ ラ ミ ン グ —言語・基礎・実践—	8月19日(木) 8月20日(金)	15:45～17:45 8:45～17:45	同 上	同 上
グラフィクスとCAD	8月19日(木) 8月20日(金)	13:00～17:00 9:30～16:00	スズキ荘観月園	同 上
グ ル ー プ ウ ェ ア	8月27日(金)	10:00～16:30	工 学 院 大	同 上

*研究会連続・同時開催 (SWo PP'93)

◆第61回 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会

(発表件数: 15件)

(主査: 鈴木則久, 幹事: 清木 康, 萩野達也, 福田 晃)

1993年並列/分散/協調処理に関する「鞆の浦」サマー・ワークショップ (SWoPP 鞆の浦'93)

—研究会連続・同時開催—

日 時 平成5年8月18日(水) 8:45～17:45

会 場 鞆シーサイドホテル

[福山市鞆町鞆555, JR: 福山(北口)下車, ホテル送迎バス(13:00(*18～20日のみ), 15:00, 18:45発)で約20分,
または南口バスセンターより鞆の浦行バス(15分間隔): 鞆の浦下車, 徒歩2分. Tel. (0849) 83-5111 (SWoPP 担当係)
Fax. (0849) 82-3122]

議 題 テーマ: 並列/分散/協調オペレーティング・システム

-8:45~10:15-

● OS-1: ファイルシステムと分散環境 (C 会場)

- (1) マルチタスク環境におけるファイルの圧縮解凍機構の実現

稲田 太, 多田好克 (電通大)

[概要] MINIX 上でのファイルの自動圧縮解凍機構の実現について。

- (2) ストライブド高速 UNIX ファイルシステムの開発 —バーチャルアレイ・ファイルシステム (VAFS) —

秋沢 充, 山下洋史, 加藤寛次, 鬼頭 昭 (日立)

牧 敏行, 山田秀則 (日立コンピュータエンジニアリング)

[概要] OS 内でストライピングと SCSI チャネル 1 本での並列アクセスを制御する方式の開発と性能評価。

- (3) オブジェクト指向分散環境 OZ++ の基本設計

塚本享治, 濱崎陽一, 田代秀一 (電総研), 西岡利博, 新部 裕, 籠 浩昭, 西山 聡 (三菱総研)

音川英之 (シャープ), 吉屋英二 (富士ゼロックス), 鈴木敏行 (シャープビジネスコンピュータ)

大西雅夫 (東洋情報システム), 平川秀忠 (日本ユニシス)

[概要] オブジェクトの交換と共有を基本とした分散処理の基盤環境を目指す OZ++ の基本設計について。

-10:30~12:30-

● OS-2: 分散仮想共有メモリ (C 会場)

- (4) 分散共有メモリモデルに基づく HPC 環境の高速化実験

了戒 清, 手塚忠則, 末吉敏則 (九工大)

[概要] 高性能 WS 群を利用して構築した並列処理環境における通信処理の影響と高速化実験についての報告。

- (5) 分散環境上で共有メモリ空間とメッセージパッシング型通信機構を提供する並列記述言語処理系 ParaDisE の試作と評価

岡村耕二 (奈良先端大), 平原正樹 (九大), 縄田毅史 (松下電器), 荒木啓二郎 (奈良先端大)

[概要] 分散処理に本当に必要な機能に重点をおいた並列記述言語処理系の試作および評価を行った。

- (6) Mach の外部ページャによる分散共有メモリサーバとその応用

斎藤彰一, 廣瀬幸平, 大久保英嗣, 大野 豊 (立命館大), 白川洋充 (近畿大)

[概要] Mach の外部ページャを利用した分散共有メモリの実現とその応用および評価について述べる。

- (7) 分散仮想記憶に基づくオペレーティングシステム DM-1 の構成

篠原拓嗣, 藤川賢治 (京大), 大久保英嗣 (立命館大), 津田孝夫 (京大)

[概要] DM-1 における分散仮想記憶とそれに基づく各種機能の実現法について述べる。

-13:30~15:30-

● OS-3: 超並列 OS と記憶管理 (C 会場)

- (8) 超並列システムカーネルの構成

堀 敦史, 石川 裕, 小中裕喜, 前田宗則, 友清孝志 (RWCP)

[概要] 超並列システムをターゲットとしたカーネルの設計構想について述べる。

- (9) 超流動 OS の大域的仮想記憶におけるページ探索法の比較

平野 聡, 一杉裕志, 田沼 均, 須崎有康 (電総研)

[概要] 超並列システム上での大域的な仮想記憶の低使用頻度ページ探索アルゴリズムの比較を行う。

- (10) 超流動 OS のための管理情報共有機構 (MetaShare) の設計

田沼 均, 平野 聡, 須崎有康, 浜崎陽一, 塚本享治 (電総研)

[概要] 超並列システムを管理するためのメタ情報の管理機構の設計を行ったのでその概要を発表する。

- (11) オペレーティングシステム Lucas における 64 ビットアドレス空間の管理

猪原茂和, 上原敬太郎, 宮澤 元, 益田隆司 (東大)

[概要] 64 ビット仮想空間上で効率的な永続データ構造管理を提供する Lucas の設計と実装について述べる。

-15:45~17:45-

● OS-4: マイクロカーネルとプロセス/スレッド管理 (C 会場)

- (12) リライアブルなマイクロカーネルの実現について

加藤暢敬, 明石 創, 大久保英嗣, 大野 豊 (立命館大), 白川洋充 (近畿大)

[概要] 信頼性の高いマイクロカーネルの構築法とその実現について述べる。

- (13) 分散要求管理を用いるアクティビティ方式並列実行機構

本橋 健, 中畑昌也 (東大), 中山泰一 (電通大), 永松礼夫, 出口光一郎, 森下 巖 (東大)

[概要] アクティビティ方式において並列実行要求の管理を分散することによる性能を評価する。

- (14) 異なる仮想プロセッサに適応できるスレッドライブラリ

宮崎輝樹, 坂本 力, 最所圭三, 福田 晃 (九大)

[概要] OS が提供する種々の仮想プロセッサに適応でき, 移植性に優れたスレッドライブラリを実装した。

- (15) NUMA マルチプロセッサにおける 2 レベルスケジューリング

藤木亮介, 甲斐久淳, 福田 晃 (九大)

[概要] クラスタ型 NUMA におけるスケジューリングアルゴリズムをシミュレーションにより評価する。

*参加申込方法

SWoPP 朝の浦 '93 への参加は通常の研究会と同様ですが, 準備の都合上, 会場 (ホテル SWoPP 担当係 (連絡先は上記参照)) に直接 Fax, または郵便にて氏名, 住所, 所属, 電話, Fax 番号, 電子メールアドレスを記入した用紙を送付してください。折返し詳しい参加申込案内を送付いたします。

参加申込に関する問合せは会場（ホテル）、または電子メールにて swopp 93-secretary@etl. go. jp までお願いします。

* 参加申込締切 平成 5 年 7 月 31 日（土）

* 電子メールによる問合せ方法

SWoPP に関するメーリングリストを開設しています。最新の詳細な情報が必要な方は、是非 swopp-request@etl. go. jp あてに本文に ad-your-email-address と送ってください。この your-email-address は必ずあなたのメールアドレスに書換えてから送ってください。

* SWoPP 系の浦'93 の一環として、電子情報通信学会（コンピュータシステム研究専門委員会：18 日・19 日、フォールトトレラントシステム研究専門委員会：19 日）が同会場にて開催されます。

◆第 89 回 人工知能研究会

（発表件数：19 件）

（主査：石塚 満，幹事：沼尾正行，橋田浩一，吉田裕之）

1993 年並列／分散／協調処理に関する「系の浦」サマー・ワークショップ（SWoPP 系の浦'93）

－研究会連続・同時開催－

日 時 平成 5 年 8 月 18 日（水）9：15～17：45

19 日（木）8：45～10：15

会 場 系のサイドホテル（所在地は前記参照）

議 題 テーマ：並列／分散／協調における AI 的なもの

8 月 18 日（水）

－9：15～10：15－

● AI-1：計算モデル（B 会場）

（1）オブジェクト指向技術を用いた分散システムの統合的モデル化と解析

Issam A. Hamid, 前川道博（東北芸術工科大）

〔概要〕 情報システムの進化的な変更に対し、柔軟に対応できる仕様の動的モデル化と仕様解析技法を論ずる。

（2）プロダクション規則と局所評価関数にもとづく計算モデル CCM による問題解決法の特徴 金田 泰（RWCP）

〔概要〕 局所的・並列的に作用する可逆な規則と評価関数による制約充足問題などの解法の特徴について述べる。

－10：30～12：30－

● AI-2：プランと探索（B 会場）

（3）ブロックスワールドを用いた各種プランナの定量的評価

松原繁夫，石田 亨（NTT）

〔概要〕 プランナ STRIPS, NONLIN, TWEAK に積木問題を与え、性質を明かにする。

（4）AND/OR 両並列性をいかしたプラン生成について

高橋和子（三菱電機）

〔概要〕 分散環境において各エージェントの局所プランから全体プランを作る手法とその解釈について述べる。

（5）分散探索における通信戦略

北村泰彦，寺西憲一，辰巳昭治，奥本隆昭（大阪市大）

〔概要〕 分散協調問題解決の一手法としての分散探索における通信コストを考慮した通信戦略について述べる。

（6）大規模分散環境における分散探索エージェントの通信戦略

檜崎修二，吉田紀彦（九大）

〔概要〕 分散環境で探索問題を解くエージェント間の効率的な情報交換を実現する通信戦略について述べる。

－13：30～15：30－

● AI-3：学習と創発（B 会場）

（7）組織学習と機械学習と分散 AI と…（ポジションペーパー）

寺野隆雄（筑波大）

〔概要〕 分散 AI システム研究に機械学習理論から接近する意義について組織学習という側面から議論する。

（8）分散協調システムに対する学習機能の導入について（ポジションペーパー）

小野成志，楠 房子，趙 東一，寺野隆雄（筑波大）

〔概要〕 分散環境下において協調的に動作するエージェントの学習モデルについて考察する。

（9）多重ゴール環境下での行動選択の振舞いについて（ポジションペーパー）

栗原 聡，岡田美智男（NTT）

〔概要〕 人間の知的活動の本質を環境との関係に見出し、行動ベースマルチエージェントモデルで考察する。

（10）並列グラフィダクションシステムの学習能力

沼尾正行（東工大）

〔概要〕 リダクションによる並列推論手法を提案し、それが自然な形で持っている学習能力について論じる。

（11）力学に基づく分散的論理推論

橋田浩一（電総研），宮田高志（東大），長尾 確（ソニーコンピュータサイエンス研）

〔概要〕 融合原理による論理的推論の意味を力学系によってとらえ、分散的に制御する方法について論ずる。

－15：45～17：45－

● AI-4：協調と競合（B 会場）

（12）力学的制約による状況エージェントの協調的行動

長尾 確（ソニーコンピュータサイエンス研），橋田浩一（電総研），宮田高志（東大）

〔概要〕 動的環境に埋め込まれた複数のエージェント同士の協調的行動を力学的制約に基づいて定式化する。

（13）複数問題の並行解決における協調手法と効率化

畑 直行，藤田智之，小川 均（立命館大）

〔概要〕 対等な立場の自律エージェント間における、各自の目標達成の効率化のための競合解消手法の提案。

（14）格子空間を移動するエージェント群の協調動作について —「パベルの塔」における副目標の生成と修正—

山崎哲哉，渡辺 尚（静岡大）

[概要] 典型的な分散協調問題であるバベルの塔を効率的に解決するアルゴリズムを数種開発し評価を行う。

(15) 自律エージェントの集団的戦略変更とその応用

沼岡千里 (ソニーコンピュータサイエンス研)

[概要] 利得に応じて戦略決定を行うエージェントの集団的戦略変更モデルを示し、その応用について論ずる。

8月19日 (木)

—8:45~10:15—

● AI-5: 緩和と近似 (B会場)

(16) 鉄道における車両割り当てスケジューリング

土屋隆司, 長田弘康 (鉄道総研)

[概要] 鉄道車両をダイヤに割り当てる問題に対してシミュレーティッドアニーリングを適用, 評価した。

(17) ネゴシエーションに基づくアブダクション (ポジションペーパー)

津田 宏, 和住誠一郎, 相場 亮 (ICOT)

[概要] コストつきアブダクションの枠組をネゴシエーションに基づいた分散制約緩和により定式化する。

(18) ネゴシエーションによる制約緩和の並列実装 (ポジションペーパー)

和住誠一郎, 津田 宏, 相場 亮 (ICOT)

[概要] 並列推論マシン PIM 上で KL1 を用い過制約問題のいくつかの例題を分散制約緩和に基づいて解く。

(19) 実時間応答を目的とした推論方法に関する研究

今成文明, 小川 均 (立命館大), 高玉圭樹 (京大)

[概要] 制約充足問題において実時間内に準最適解を求める並列的な推論方法を提案する。

*参加申込方法等は前記システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会欄をご参照ください。

◆第34回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 五十嵐善英, 幹事: 浅野哲夫, 白石洋一, 平田富夫)

1993 年並列/分散/協調処理に関する「柄の浦」サマー・ワークショップ (SWoPP 柄の浦 '93)

—研究会連続・同時開催—

日 時 平成 5 年 8 月 19 日 (木) 10:30~15:30

会 場 柄シーサイドホテル (所在地は前記参照)

議 題 テーマ: 並列・分散アルゴリズム

—10:30~12:30—

● AL-1: 並列/分散アルゴリズム (B会場)

(1) Optimal Initializing Algorithms for Reconfigurable Meshes

中野浩嗣 (日立)

[概要] 3 種類の再構成メッシュ上で, 各プロセッサに絶対座標を割り当てる最適なアルゴリズムを示す。

(2) 拡張された分散 k-相互排除

宮本英典, 角川裕次, 山下雅史 (広島大)

[概要] 共有関係の異なる複数個の資源を持つ分散システムにおいて, 分散相互排除問題を考える。

(3) Multi-pin net の引き剥しを考慮した並列配線処理

佐野雅彦, 高橋義造 (徳島大)

[概要] Multi-pin net の引き剥しを用いた並列配線処理の品質改善方法の評価。

(4) 配線問題への GA の適用法とその並列処理

岡 圭司, 佐野雅彦, Julio Tanomaru, 高橋義造 (徳島大)

[概要] 配線問題に GA を用いる為の各種オペレータと集団を定義し, その並列処理効果を実験により評価する。

—13:30~15:30—

● AL-2: システムへの応用 (B会場)

(5) バス結合並列計算機モデルにおけるデータ転送の最適アルゴリズム

岡部寿男, 津田孝夫 (京大)

[概要] 共有バスで結合されたマルチプロセッサをモデル化した新しい記憶階層モデルを提案する。

(6) シミュレーティッド・アニーリングによる静的タスク配置へのヒューリスティクスの適用とその評価

堀川和雄, 森眞一郎, 中島 浩, 富田眞治 (京大)

[概要] エネルギーを効率良く低下させる数種のヒューリスティクスを提案し, その評価を行う。

(7) ガード付き PDG を用いた大域的コードスケジューリング技法

古関 聡 (早大), 小松秀昭 (日本 IBM), 深澤良彰 (早大)

[概要] ガード付 PDG を用いた, 命令レベル並列計算機のための大域的命令スケジューリング技法の提案。

(8) クリティカルパス情報を利用したレジスタ割付け手法

神力哲夫 (早大), 小松秀昭 (日本 IBM), 深澤良彰 (早大)

[概要] 従来手法では考慮されなかった, 命令レベル計算機の並列性を活かしたレジスタ割付け手法。

*参加申込方法等は前記システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会欄をご参照ください。

第 93 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 20 件)

(主査: 富田眞治, 幹事: 中島 浩, 村上和彰, 矢野陽一)

1993 年並列/分散/協調処理に関する「柄の浦」サマー・ワークショップ (SWoPP 柄の浦 '93)

—研究会連続・同時開催—

日 時 平成 5 年 8 月 19 日 (木) 13:30~17:45

20 日 (金) 8:45~17:45

会 場 柄シーサイドホテル (所在地は前記参照)

議 題 テーマ: 並列/分散/協調・アーキテクチャ —ブレイクスルーを求めて—

8 月 19 日 (木)

—13:30~14:30—

● ARC-1: 招待講演 (A 会場)

(1) 日本のデータ駆動型並列計算機 —昨日・今日・明日—

弓場敏嗣 (電通大)

—15:45~17:45—

● ARC-2: 超並列計算機 RWC-1 (A 会場)

(2) 超並列計算機 RWC-1 における同期機構

岡本一晃, 松岡浩司, 廣野英雄 (RWCP), 横田隆史 (三菱電機), 堀 敦史 (RWCP)

児玉祐悦, 佐藤三久 (電総研), 坂井修一 (RWCP)

[概要] 命令記憶との対応を柔軟化した直接マッチング方式をとる RWC-1 の同期機構について述べる。

(3) 超並列計算機 RWC-1 における記憶構成

松岡浩司, 岡本一晃, 廣野英雄 (RWCP), 横田隆史 (三菱電機), 堀 敦史 (RWCP)

児玉祐悦, 佐藤三久 (電総研), 坂井修一 (RWCP)

[概要] データ分割を考慮したアドレス変換方式を採用する RWC-1 のメモリアーキテクチャについて述べる。

(4) 超並列計算機 RWC-1 の相互結合網

横田隆史 (三菱電機), 松岡浩司, 岡本一晃, 廣野英雄, 堀 敦史 (RWCP)

児玉祐悦, 佐藤三久 (電総研), 坂井修一 (RWCP)

[概要] 超並列計算機の時分割運用をサポートする機能を提案し, これを採用する標記結合網の概要を述べる。

(5) 超並列計算機 RWC-1 における入出力機構

廣野英雄, 松岡浩司, 岡本一晃 (RWCP), 横田隆史 (三菱電機), 堀 敦史 (RWCP)

児玉祐悦, 佐藤三久 (電総研), 坂井修一 (RWCP)

[概要] 専用ネットワークにより高速かつ大量データの扱いが可能な RWC-1 の入出力機構について述べる。

8 月 20 日 (金)

—8:45~10:15—

● ARC-3: システム・アーキテクチャ (A 会場)

(6) 超並列テラフロップスマシン TS/1 の構想

田邊 昇, 菅野伸一, 鈴木真樹, 小柳 滋 (東芝)

[概要] 通産省 RWCP 大プロの一貫として東芝分散研が開発する超並列マシンの構想。

(7) 高並列計算機 EM-X のアーキテクチャ

児玉祐悦, 佐藤三久, 坂根広史 (電総研), 坂井修一 (RWCP), 山口喜教 (電総研)

[概要] 並列処理のための低レイテンシなパケット通信を実現する高並列計算機アーキテクチャについて述べる。

(8) お茶の水 1 号の構成と評価

中里 学, 大津金光, 戸塚米太郎, 松本 尚, 平木 敬 (東大)

[概要] 汎用細粒度並列計算機お茶の水 1 号のアーキテクチャについて述べ, 基本的な評価を行う。

—10:30~12:30—

● ARC-4: プロセッサ・アーキテクチャ (A 会場)

(9) スーパースカラ・プロセッサにおける分岐命令の並列実行

原 哲也, 安藤秀樹, 町田浩久, 中西知嘉子, 中屋雅夫 (三菱電機)

[概要] スーパースカラにおいて命令レベル並列性向上のキーとなる分岐命令の並列実行について述べる。

(10) スーパースカラプロセッサにおけるリカバー方式

安里 彰, 志村浩也 (富士通研)

[概要] 命令を非順序実行するプロセッサのリカバー処理を少ないハード量で実現する方法について述べる。

(11) スライドウィンドウ方式に基づく擬似ベクトルプロセッサ

中村 宏, 中澤喜三郎, 李 航 (筑波大), 位守弘充 (日立), 朴 泰祐 (筑波大)

[概要] レジスタにスライドウィンドウ構成を採用した擬似ベクトルプロセッサの処理方式とその評価を示す。

(12) ハイパースカラ・プロセッサ・アーキテクチャ —実現上の課題—

斎藤靖彦, 村上和彰 (九大)

[概要] 命令レベル並列性を活用するハイパースカラ・プロセッサの実現に際して解決すべき課題を検討する。

—13:30~15:30—

● ARC-5: メモリ・アーキテクチャ (A 会場)

(13) 実時間処理用共有メモリ

藤原 寛, 藤田 聡, 相原玲二, 阿江 忠 (広島大)

[概要] 既存のマルチポートメモリを組合せてポート数を増加させる共有メモリのアーキテクチャを提案する。

- (14) メモリ結合型マルチプロセッサ MC1 について 酒居敬一, 藤田 聡, 相原玲二, 阿江 忠 (広島大)
 [概要] 現在製作中のマルチポート共有メモリで結合する型のマルチプロセッサについての報告。
 (15) キャッシュインジェクションとメモリベース同期機構の高速化 松本 尚, 平木 敬 (東大)
 [概要] データを外部からプロセッサに投機的に注入する機構とキャッシュによる同期機構の高速化について。
 (16) 細粒度プロセッサ間通信をサポートする高機能キャッシュ・システム

五島正裕, 岡田智明, 細見岳生, 森眞一郎, 中島 浩, 富田眞治 (京大)

[概要] I-structure と FIFO により細粒度通信を高速化するキャッシュ機構について。

—15:45~17:45—

◆ ARC-6: 要素プロセッサ・アーキテクチャ (A 会場)

- (17) 並列オブジェクト指向トータルアーキテクチャ A-NET —PE の実装設計— 岩本善行, 吉永 努, 馬場敬信 (宇都宮大)
 [概要] A-NET 計算機における処理要素のアーキテクチャとそのハードウェア設計および実装について。
 (18) 並列計算機 Datarol-II のプロセッサエレメントの構成 川野哲生, 日下部茂, 谷口倫一郎, 雨宮真人 (九大)
 [概要] 並列計算機 Datarol-II のプロセッサエレメントの構成およびその性能評価について。
 (19) Restructured Instruction and Switched Context RISC processor (RISC) 2 の提案 石井吉彦, 野上 忍, 小野寺毅, 三浦敏孝, 村岡洋一 (早大)
 [概要] 本稿で提案する (RISC)²では, マクロデータフロー処理をし, 多段に渡る投機的実行を実装する。
 (20) 高性能プラットフォーム要素マイクロプロセッサ・アーキテクチャ —方式検討— 村上和彰, 山家 陽 (九大)

[概要] 超並列マシンの構築に幅広く適用可能な要素マイクロプロセッサの構成方式を検討する。

* 参加申込方法等は前記システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会欄をご参照ください。

* IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆ 第 48 回 ハイパフォーマンスコンピューティング研究会

(発表件数: 17 件)

(主査: 福井義成, 幹事: 土谷 隆, 長嶋雲兵, 吉原郁夫)

1993 年並列/分散/協調処理に関する「**輛の浦**」サマー・ワークショップ (SWoPP 輛の浦 '93)

—研究会連続・同時開催—

日 時 平成 5 年 8 月 19 日 (木) 15:45~17:45

20 日 (金) 8:45~17:15

会 場 輛シーサイドホテル (所在地は前記参照)

義 題 テーマ: ハイパフォーマンス—並列/分散/協調—コンピューティング

8 月 19 日 (木) —15:45~17:45—

◆ HPC-1: システム支援プログラミング (B 会場)

- (1) 物理 PE のデータ構造を併用した並列記述言語 ADETRAN のプログラミングとその実効性能 尾林善正, 金子克幸, 岡本 理 (松下電器), 富田貞文, 石川 隆 (松下ソフトリサーチ)
 [概要] 物理 PE に対応するデータ構造を用いたプログラミングによる性能向上を基本的行列演算を例に述べる。
 (2) Fortran/AP: グローバルなアドレス空間を AP 1000 上でサポートした言語処理系の実現と評価 進藤達也, 土肥常久 (富士通研)

[概要] AP 1000 上の Fortran 処理系に関する実現法と性能評価の報告を行う。

(3) 並列計算機 AP 1000 用数値演算アクセラレータの構成と評価

清水俊幸, 石畑宏明 (富士通研), 飯野秀之, 木村雅春 (富士通)

[概要] 並列計算機 AP 1000 のベクトル演算オプションを開発した。その構成と性能について述べる。

(4) Dataparell-C を用いたベクトル化コード生成と AP 1000 への実装 小柳洋一, 堀江健志 (富士通研)

[概要] 並列言語 Dataparell-C のベクトル化コード生成を行い, 高並列計算機 AP 1000 に実装し評価した。

8 月 20 日 (金) —8:45~10:15—

◆ HPC-2: 専用計算機システム (B 会場)

(5) 超並列重力多体問題専用計算機 GRAPE-4

泰地真弘人, 牧野淳一郎, 小久保英一郎, 戎崎俊一, 杉本大一郎 (東大)

[概要] 1 Tflops の性能をもつ超並列重力多体問題専用計算機 GRAPE-4 のアーキテクチャ。

(6) 数値流体力学専用計算機 DREAM-1A 大野洋介, 牧野淳一郎, 蜂巢 泉, 戎崎俊一, 杉本大一郎 (東大)

[概要] 数値流体力学における記憶容量不足を解決する並列計算機 DREAM-1A について報告する。

(7) HARP-1: HermiteScheme による重力多体問題専用計算機 小久保英一郎, 牧野淳一郎, 泰地真弘人 (東大)

[概要] 粒子間の重力相互作用による加速度とその時間微分を計算する専用計算機 HARP-1 について報告する。

-10:30~12:00-

●HPC-3: 並列数値アルゴリズム (B 会場)

(8) 大規模実対称行列の状態密度の計算とその並列化

日向寺祥子, 長嶋雲兵 (お茶の水女子大)

[概要] 大規模実対称行列の状態密度を行列の対角化を行うことなく求める方法と, その並列化について.

(9) マルチグリッド前処理付き自乗共役勾配法

襲田 勉, 建部修見, 小柳義夫 (東大)

[概要] 自乗共役勾配法の前処理としてマルチグリッド前処理を行う方法を提案し, その方法の有効性を示す.

(10) 前処理つきヤコビ法による回路シミュレーションの並列計算機への実装

須田礼仁 (東大)

[概要] 高速高並列な回路シミュレーション用の解法として前処理付きヤコビ法を提案し AP 1000 に実装した.

-13:30~15:30-

●HPC-4: システム評価とモデリング (B 会場)

(11) 並列計算機の解析モデル —共有メモリ・ブロックの状態予測—

城 和貴, 福田 晃 (奈良先端大)

[概要] 並列計算機の共有データ・ブロックに着目して, その状態遷移を予測する解析モデルを提案する.

(12) メッセージ交換型マルチコンピュータの通信性能 —AP 1000 に関する通信性能モデリングおよび性能評価—

國貞勝弘, 村上和彰 (九大)

[概要] マルチコンピュータ AP 1000 を例にとり, その通信性能を定式化し, 実測値と比較評価する.

(13) 並列オブジェクト指向トータルアーキテクチャ A-NET

—ルータハードウェアの簡単化とメッセージ交換の高速化—

古谷泰重, 田口弘史, 吉永 努, 馬場敬信 (宇都宮大)

[概要] A-NET のルータハードウェアの簡単化に伴うファーム・OS の改善とシミュレーション結果.

(14) 多段先行評価方式の並列計算機 EM-4 上での予備評価

山名早人, 佐藤三久, 児玉祐悦, 坂根広史, 坂井修一, 山口喜教 (電総研)

[概要] 先行評価で問題となるメモリバンド幅増大を EM-4 上で検証し, 先行評価に与える影響を明らかにする.

-15:45~17:15-

●HPC-5: シミュレーション技術 (B 会場)

(15) アドレストレスを利用した並列計算機のパラメトリック・シミュレータ

大森洋一, 城 和貴, 福田 晃, 荒木啓二郎 (奈良先端大)

[概要] 共有メモリ並列機における記憶階層のアドレストレスと確率モデルを併用した並列シミュレーション.

(16) 3次元数値シミュレーション結果の可視化技術

小山田耕二, 伊藤貴之 (日本 IBM)

[概要] 格子間の隣接関係を用いてボリュームレンダリングや等高面表示を効率よく行う方法を提案する.

(17) 離散事象型並列シミュレーションにおけるマッピング手法

高井峰生, 笠原博徳, 成田誠之助 (早大)

[概要] 離散事象型並列シミュレーションでマッピングを考えた際の並列効果をシミュレーションで考察する.

*参加申込方法等は前記システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会欄をご参照ください.

◆第 13 回 プログラミング—言語・基礎・実践—研究会

(発表件数: 19 件)

(主査: 萩谷昌己, 幹事: 大堀 淳, 柴山悦哉, 松岡 聡)

1993 年並列/分散/協調処理に関する「柄の浦」サマー・ワークショップ (SWoPP 柄の浦 '93)

—研究会連続・同時開催—

日 時 平成 5 年 8 月 19 日 (木) 15:45~17:45

20 日 (金) 8:45~17:45

会 場 柄シーサイドホテル (所在地は前記参照)

議 題 テーマ: 並列/分散/協調プログラミングの実践と基礎

8 月 19 日 (木)

-15:45~17:45-

●PRG-1: 並列コンパイラ・言語処理系 (C 会場)

(1) 細粒度並列計算機用最適化コンパイラ: OP. 1

稲垣達氏, 松本 尚, 平木 敬 (東大)

[概要] 細粒度並列計算機の通信・同期のオーバーヘッドを考慮したコンパイラの実現.

(2) Bee-Fortran のマルチターゲットコンパイル方式

渦原 茂 (慶大), 小前 晋, 杉森英夫 (住友金属), 大谷浩司 (アックス), 安村通晃 (慶大)

[概要] 並列言語 Bee-Fortran における複数のアーキテクチャをターゲットにしたコンパイル方式について.

(3) 抽象機械に基づく並列自己反映プログラミング言語とそのコンパイル手法

渡部卓雄 (北陸先端大)

[概要] CEQ 抽象機械に基づく, アクター言語のコンパイル時/実行時自己反映計算モデルとコンパイル手法.

(4) マルチスレッドによるメッセージ通信型並列処理言語 SPLAN の実現

岡本秀輔, 飯塚 肇 (成蹊大)

[概要] Mach の Cthread を用いた SPLAN の実現と C および SPLAN による並列プログラミングの比較について.

8 月 20 日 (金)

-8:45~10:15-

●PRG-2: 並行デバッグ・解析ツール (C 会場)

(5) 並行オブジェクト指向C言語 cooC の視覚的デバッグ

今井 徹, 茂木章善, 澤島信介, Rajiv Trehan (東芝)

[概要] 並行処理の視覚的表現とクライアントサーバ方式による並行スレッドデバッグの実現について述べる。

(6) 並行プログラムのプロセス依存ネット生成ツール

笠原義晃, 程 京徳, 牛島和夫 (九大)

[概要] 並行プログラムのプロセス依存ネットを生成するツールの構成と実装について述べる。

(7) データフロートレーサによる並列論理型言語 Fleng のパフォーマンスデバッグ

館村純一, 小池汎平, 田中英彦 (東大)

[概要] データ依存関係を解析・提示し, 性能低下の原因となる不必要な逐次性の発見を支援するツールの開発。

—10:30~12:30—

●PRG-3: 並列プログラミングとそのシステム (C会場)

(8) ワークステーション複合体による並列処理システム —中・小粒度オブジェクト指向並列処理の実現—

瀧 和男, 小倉 毅 (神戸大)

[概要] 専用結合網で結んだワークステーション上に題記の処理を効率良く行うシステムをCで実現した。

(9) 動的負化分散のための並列木探索 (DTS) アルゴリズムの拡張 —並列計算機 AP 1000 でのライブラリ化—

大野和彦, 森真一郎, 中島 浩, 富田眞治 (京大)

[概要] 並列木探索プログラム支援環境としての, 動的負化分散ライブラリ等の実現について報告する。

(10) 並列システムに対する文法プログラミングからのアプローチ

松田裕幸 (東工大)

[概要] 遅延評価属性文法を元にした文法プログラミングにおける並列システム記述について述べる。

(11) A new technique to improve parallel automated single layer wire routing.

Hesham Keshk, 森真一郎, 中島 浩, 富田眞治 (京大)

[概要] We propose a method to speed up the wiring time in particular for short length wires.

—13:30~15:30—

●PRG-4: 並列プログラミング言語 (C会場)

(12) 超並列プログラミング言語 MPC++ の概要

石川 裕, 小中裕喜, 前田宗則, 友清孝志, 堀 敦史 (RWCP)

[概要] NUMA 超並列計算機上のアプリケーション記述を目的とした言語 MPC++ の概要について述べる。

(13) 超並列オブジェクトベース言語 OCore の概要

小中裕喜, 石川 裕, 前田宗則, 友清孝志, 堀 敦史 (RWCP)

[概要] 超並列オブジェクト指向言語の核となる言語 OCore について, その概要を述べる。

(14) 超並列オブジェクトベース言語 OCore におけるリフレクション機能

友清孝志, 石川 裕, 小中裕喜, 前田宗則, 堀 敦史 (RWCP)

[概要] 超並列オブジェクト指向言語 OCore におけるメタレベルの制御を行う機能について論じる。

(15) データ並列論理型言語とその応用

松田秀雄, 金田悠紀夫 (神戸大)

[概要] データ並列方式に基づく並列論理型言語を提案し遺伝子情報データベースへの応用について述べる。

—15:45~17:45—

●PRG-5: 並列プログラムのランタイム技術 (C会場)

(16) 超並列オブジェクトベース言語 OCore 上の GC に関する考察

前田宗則, 石川 裕, 小中裕喜, 堀 敦史, 友清孝志 (RWCP)

[概要] 超並列オブジェクト言語 OCore におけるリアルタイム処理を考慮した GC について論じる。

(17) 超並列計算機上の高効率な大域的ガベージコレクション

鎌田十三朗, 松岡 聡, 米澤明憲 (東大)

[概要] 超並列計算機で移送中メッセージからの参照を高効率に扱う大域 GC の方式を二種提案・比較する。

(18) アクティブメッセージによる並列プログラム実行性能の改善

林 憲一, 堀江健志 (富士通研)

[概要] アクティブメッセージを AP 1000 に実装し, 実用的なプログラムに適用してその効果を評価する。

(19) 関数型プログラムの疎/密結合並列計算機上の実行スケジューリング手法

高橋英一, 谷口倫一郎, 雨宮真人 (九大)

[概要] 関数型プログラムのデータフロー解析による疎/密結合並列計算機上の実行スケジューリング手法。

*参加申込方法等は前記システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会欄をご参照ください。

◆第64回 グラフィクスとCAD研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 西原清一, 幹事: 大野義夫, 福井一夫, 間瀬健二)

日 時 平成5年8月19日(木) 13:00~17:00

8月20日(金) 9:30~16:00

会 場 スズキ荘観月園

[静岡県浜名郡舞阪町舞阪字観月園 2925-1, JR(新幹線):浜松または豊橋下車, 東海道線:弁天島下車, 徒歩20分, あるい

はタクシー2分。Tel. (053) 596-0808]

議 題 第7回 グラフィクスとCAD 集中研究集会「感性、芸術とマルチメディア」

CGの研究には、リアルな画像生成の追求、より美しい画像、あるいはよりわかりやすい画像の追求の他に他の情報との融合といったアプローチもあるはずです。今回の集中研究集会では、画像だけでなく、音響、音楽などを含めてマルチメディアとVRにおける総合的な美しさを創造・表現するための手法・経験を語りあえる場にしたいと考えております。

8月19日(木)

(1) 開会の挨拶

三好和憲(工学院大)

●感性の認知・評価

(2) 視覚による感性情報の認知

鬼塚武郎

(3) 感性評価支援システムCAKESの提案

佐々木尚孝(岐阜県工業技術センター), 稲葉昭夫(岐阜県金属試験場)

●アニメーションと芸術

(4) 大局の変形と局所の変形を用いた顔の三次元アニメーション

新井清志(日立)

(5) フラクタル・レイトレーシング法

青山智夫(日立CE)

(6) コンピュータアートの芸術性

佐々木睦子(理研)

8月20日(金)

—9:30~11:40—

●研究動向と展望

(7) マルチメディア技術の実用化と展望

持田康典(工学院大)

(8) マルチメディアとVRの最新動向

中嶋正之(東工大)

●言語とモデル

(9) 第三の皮膚論(その2)

幸村真佐男(東北芸術工科大)

—13:00~16:00—

(10) 図形の選択に有効な述語 —タータン地紋データベースにおける事例研究—

石原 亘(京都芸術短大)

(11) 表情認識のための表情記述モデル

関 峰雄, 中村 納, 南 敏(工学院大)

●対話システム

(12) インタラクティブ・ムービーの芸術性

横山弥生(トキワ松学園女子短大)

●総合討論

司会: 三好和憲(工学院大)

*集中研究集会に参加ご希望の方は、下記までお問合せください。

三好和憲(工学院大・電子) Tel. (03) 3342-1211 大野義夫(慶大・理工) Tel. (045) 536-1141

◆第3回 グループウェア研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 松下 温, 幹事: 岡田謙一, 守屋康正, 山上俊彦)

日 時 平成5年8月27日(金) 10:00~16:30

会 場 工学院大学 28階 第4会議室

[東京都新宿区西新宿1-24-2, JR: 新宿(西口)下車, 徒歩約10分。Tel. (03) 3342-1211]

議 題

—10:00~11:45—

(1) 一日本企業における電子会議試行から得られた知見

栗原宏文(東燃システムプラザ)

[概要] 一日本企業組織における電子会議試行から得られた知見を紹介し、組織における電子的社会場を論じる。

(2) 発見的通信

水梨 潤, 岡田謙一, 松下 温(慶大)

[概要] ネットワーク時代のサービスを発見的に活用できる仮想空間システムのインタフェースを提案する。

(3) 分散型ノウハウ蓄積システムGoldFISHの検討

関 良明, 藤木直人(NTT)

[概要] 情報の有効範囲/組織構成/ネットワーク環境の3階層を統合するマルチグループ対応方式を検討する。

—13:00~16:30—

(4) 協調設計プロセスにおける競合解消について

藤田 茂, 菅原研次(千葉工大)

[概要] ソフトウェア設計プロセスにおいて発生するプロセス間の競合を解消するための方法について述べる。

(5) 協調作業モデル記述言語の設計

樋地正浩(日立東北ソフトウェア), 布川博士, 白鳥則郎(東北大)

[概要] 自律的オブジェクトを持つ協調型計算モデルに基づく、協調作業記述言語の設計について述べる。

(6) ユーザインタフェース・メタファーの定性的評価とその考察

佐藤 究, 布川博士(東北大), 楠見 孝(筑波大), 野口正一(東北大)

[概要] UIにおけるメタファーの評価のための認知心理学実験手法, 実験および実験結果に基づく定性的評価。

(7) 協調ハイパーメディアシステムについて

牛田修司, 神谷慎吾, 谷口秀夫(NTT データ)

[概要] ハイパーテキストを複数ユーザで共有するサービスを提供する基盤ソフトウェアの構想について述べる。

(8) 協調的思考支援システムBWS-1

黒瀬博靖(リコー)

【概要】 ブレインライティングを基礎にして新たな観点を導入した発散的発想を支援するシステムを試作した。

◆計算機アーキテクチャ研究会

第94回研究会を下記のとおり開催いたします。多数の発表申込をお待ちしています。

日 程 平成5年10月21日(木)・22日(金)

会 場 ソニー(本社第2ビル)(品川)

発表申込締切 平成5年8月6日(金)

発表申込方法 研究発表申込書の様式で、発表題目、発表者名、略称所属、概要(46字以内)、発表申込者連絡先(住所、氏名、Tel、Fax、e-mail)をご記入のうえ、下記の申込み先へ電子メールまたはFaxで直接お申込みください。なお、できるだけ電子メールでお願いいたします。

発表申込み先 中島 浩(京大) e-mail: nakasima@kuis.kyoto-u.ac.jp Fax. (075) 753-5379 Tel. (075) 753-5383

◆プログラミング—言語・基礎・実践—研究会

第14回研究会を下記のとおり開催いたします。多数の発表申込をお待ちしています。

日 程 平成5年10月29日(金)

会 場 工学院大学

議 題 一般、および小特集：オブジェクト指向と型

発表申込締切 平成5年7月末日

発表申込方法 (上記の計算機アーキテクチャ研究会と同様)

発表申込み先 大堀 淳(沖電気) e-mail: ohori@kansai.oki.co.jp Fax. (06) 949-5108 Tel. (06) 949-5102

◆情報学基礎研究会

第32回研究会の発表論文を下記のとおり募集します。多くの方のご応募をお待ちしております。

日 時 平成5年11月9日(火) 10:00~17:00

場 所 東京都内(工学院大学を予定)

テ ー マ 特集：情報基盤の整備と利用技術について

例えば、情報を効率よく管理するための知識構造／リポジトリ、日本語処理のための辞書構築(意味辞書、シソーラスなど)、大量データの流通、標準化、およびデータベース利用技術の評価のためのDB構築などに関する方針、取り組み状況、成果発表等を予定しています。

発表申込締切 平成5年8月27日(金)

* 研究会に発表申込希望者は開催日の3ヶ月前までに研究会発表申込書(4月号本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。

平成6年度研究会等の新設提案について

平成6年度に研究会・調査委員会の新設を希望する会員は、8月31日(火)までに所定の書式により、研究会(調査委員会)新設提案書を調査研究運営委員長に提出してください。書式、その他の詳細は学会事務局研究会係までお問合せください。

「音楽情報科学」研究グループ終了にあたって

(主査：平田圭二，幹事：志村 哲，鈴木 孝，増井誠生)

本研究グループは、平成5年3月をもって発展的に終了し、4月より正式な研究会に移行することができた。ここに至らず、研究グループの会員および情報処理学会のご理解とご協力に厚く感謝したい。研究グループ終了にあたり、以下にこれまでの活動の経緯や成果などを総括する。

本研究グループの設立目的の一つは、音楽情報処理という研究分野の活性化と社会的認知であった。世界的に見ると音楽と計算機の境界領域の研究や音楽制作活動自体はかなり古くからあり、40年近い歴史をもっている。国内でもコンピュータ音楽制作の方は20年近い歴史をもっているが、音楽システムや音楽情報／知識処理の研究に関しては、ハードウェアの進歩、知識処理技術、AI技術の進歩を待つ必要があり、'80年代半ばに、ようやく情報処理研究者、技術者の興味を引くようになったと言ってよい。

実際この頃より、いろいろな研究会、全国大会、シンポジウムなどで計算機と音楽の境界領域に関する研究発表が散見されるようにはなったものの、ほかの研究分野に比べ適切な発表の場は少なく、また断続的に議論を行う場も非常に限られたものであった。その議論、発表の場の一つが当時まだ私的な勉強会であった「音楽情報科学研究会」である。本研究グループは、この勉強会を母体として1989年8月に発足した。発足直前の勉強会の会員数はすでに200名に達しており、音楽情報処理に対して興味を抱く研究者、技術者の多かったことが分かる。

しかしほかの確立された研究分野に較べると、当時の音楽情報処理は、まだまだ未成熟、一人前でないという印象が強く、音楽情報処理の研究や技術開発をメインとして行える企業や大学は非常に少なかった。そのような時期に情報処理学会音楽情報科学研究グループは発足し、音楽情報処理という研究分野の活性化と社会的認知を進めるための研究会活動を行ってきた。現在の状態でもまだ十分とは言えないが、発足当時の状況からは大幅に進展したという感触を持っている。

この3年8カ月間の活動を振り返ると、通常の研究会形式の研究会は16回開かれ55件の論文が発表された。開催地は東京12回、大阪2回、浜松、神戸がそれぞれ1回ずつであった。うちコンサートが併設されたのが2回あった。論文のテーマは、自動作曲・編曲・演奏、自動採譜、楽譜認識、音楽分析、楽譜印刷、楽譜編集、楽音合成、電子楽器、音色認識、音楽認知、音楽学、音響学、民族音楽学と多岐にわたった。さらに毎年9月上旬には3日間にわたる夏のシンポジウムを計3回開催した。夏のシンポジウムでは毎回20件近くの論文発表と10曲程度の音楽作品発表があり、毎回100名前後の参加者を数えた（コンサートだけに限るとさらに多い）。昨年の夏のシンポジウムでは海外からの発表も見られるまでになった。さらに、電楽というコンサート主体の研究発表会も1回開かれた。

このように研究グループをベースに組織的に研究活動を進められたことで、研究発表のレベル向上、音楽関係者との連携の深まり、研究者間の活発な交流、興味をもつ企業、大学、研究者数の増加、ボランティアベースの運営体制からの脱皮などが達成できたと感じている。計算機と音楽の境界領域を対象としているだけに、従来の情報処理学会の論文発表の形態とはかなり違った形で研究発表が多かったのだが、研究グループという比較的自由な活動の場を提供していただいたおかげでそれらにも柔軟に対処でき、研究会運営の雰囲気やノウハウをある程度掴むこともできた。

計算機と音楽の境界領域はまだ未成熟の分野であり、日々その研究や技術の流れは変化しているので、研究会に移行した後も会運営の柔軟性を大切にしなければならないと思っている。今後も研究会の枠にとらわれず、世界に貢献するような音楽情報処理の研究を推進していこうと思う次第である。

「オーディオビジュアル複合情報処理」研究グループ終了にあたって

(主査：富永英義，幹事：二宮佑一，村上仁己，安田 浩)

本研究グループは、人間に最も優しい情報処理・通信・インタフェースを求めて研究活動を進めたもので、画像信号処理、HDTV 信号・システムの活用、高品質音声処理・音場処理などをスタートとして、マルチメディアの有機的・総合的活用を実現するハイパメディア場への進展を積極的にサポートするものであった。これらの研究現状はすでに実用化に近いものから、まだ萌芽状態にあるものなど幅広く、これらの分野にかかわりの深い研究会との協調を持ちながら、本研究グループで適切な課題設定をもって研究紹介の効率化をはかり、実用から最先端までの研究者の積極的交流の場とすることにより、技術進歩の加速をはかることを大きな目的としてきた。

特に、国際的な環境においては ATV・HDTV を中心に据えた B-ISDN に向けた信号処理・通信・サービスに関する国際標準化さらにはマルチメディア・ハイパメディアに関する国際標準化などの活動の裏付けとなるために、オリジナルなアイデアや研究成果をできるだけ促進する方向で報告・討論できる場として本研究グループの存在が重要な意味をもっていた。標準化にかかわる正式の活動は、情報処理学会情報規格調査会が国際事務局という大役を担って平成 3 年 11 月に発足した ISO/IEC JTC 1/SC 29 が行っている。SC 29 は JBIG (2 値画像符号化)、JPEG (静止画符号化)、MPEG (動画符号化)、および MHEG (マルチメディア&ハイパメディア符号化) を検討中であり、中には DIS 投票レベルに進んだものも出始めている。これら標準化への貢献はわが国としての責務であり、知的所有権を確保しながら標準化への貢献をはかるためには同様な研究分野をもつ研究会などの公式の発表の場が情報処理学会に必要である。

本趣旨ののっとり、研究グループを平成 3 年半ばに提案、平成 3 年 9 月より研究グループ活動を行ったところ、研究発表会 6 回、発表件数 31 件、参加者数延べ 520 名の実績を上げることができた。この結果、これらの活動が認められ、平成 5 年 4 月より研究会に昇格することが決定されたため、今後この分野の活動は新設の研究会で行うこととし、本研究グループの活動を終了することとした。

「グループウェア」研究グループ終了にあたって

(主査：松下 温，幹事：岡田謙一，守屋康正，山上俊彦)

平成 5 年 4 月よりグループウェア研究会が新しく発足しましたので、平成 4 年度までの研究グループ活動分の終了をご報告します。平成 4 年 4 月にグループウェア研究グループが設立され、199 名の加入がありました。3 ヶ月に 1 回のペースで、合わせて 4 回の研究発表およびシンポジウム 1 回を行い、この分野に関する先進的で活発な研究討議の場が、日本においても広く渴望されていたことを示すことができました。参加者は研究会 4 回合わせて 240 名を越える盛況でありました。会議支援・発想支援・議論支援・設計支援・知識伝達支援・遠隔共同作業支援などの各種協調アプリケーションの実現、コミュニケーションモデル・人間関係強度・多重性・可確認性・アウェアネス・集団内の振舞いなどの認知科学／行動科学的検討、オブジェクト指向システム・ハイパーメディア・分散協調制御・マルチメディアプラットフォームなどの実現手法、ウィンドウ管理や分散操作などのマルチユーザインタフェース、作業モデルや評価手法などのグループウェア基礎論にいたるまで、幅広い観点からの発表が行われ、活発な議論を行うことができました。発表は合わせて約 50 件有り、活発な議論を行うことができました。研究グループ参加者の中には永続的な研究会として長期的視野にたった議論の場を提供すること望む声が少なくなく、平成 4 年度の実績をもとに研究会への昇格を行うことが承認されました。

このため、本研究グループは、グループウェア研究会への発展をもって、研究グループとしての使命を終え、終了することとなりました。今後はグループウェア研究会として、社会科学と情報科学の接点における共同作業、集団知および協調過程の支援に関する研究についての活発なご討論をお願いいたします。

大学等における一般情報処理教育の在り方に関する調査研究報告書 頒 布 の お 知 ら せ

本学会では、平成4年度文部省高等教育局から標記の調査研究の委嘱を受け、大学、高専、短大などにおける一般情報処理教育について、目次概要に示す調査研究報告書を提出しました。

目 次

1. 概要
 2. 調査研究の目的
 3. 一般情報処理教育の教育理念
 4. 一般情報処理教育カリキュラム
 5. 一般情報処理教育の教育環境
- 付録 A. 講義例 B. 科目構成例 C. 教科書・参考書 D. 文献

本報告書を下記によりお分けいたします。

申込書（1枚1人使用のこと）を郵便、またはFaxにて申込先あてお送りください。

頒布価格 2,500円（送料、消費税込）

申込・問合せ先 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 階
(社)情報処理学会 研究会係 Tel.(03)5322-3535 Fax.(03)5322-3534

..... 申 込 書

大学等における一般情報処理教育の在り方に関する調査研究報告書（一般）

申込者氏名 フリガナ _____ 会員番号 _____

連絡先所属 _____ Tel. _____ - _____ Fax. _____ - _____

送本先 _____ 希望部数 _____ 部

*住 所 _____ 請求書 _____ 通

*所 属 _____ 見積書 _____ 通

_____ 納品書 _____ 通

_____ 請求宛名 _____

*氏 名 _____ 展覧
←送本用宛名ラベルに使用の為、
楷書にてご記入ください

送金方法（該当欄に✓印願います） * 名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 (社)情報処理学会

☐ 現金書留 ☐ 郵便振替（東京 5-83484） ☐ 持参

☐ 銀行振込（いずれも普通預金口座）

第一勧業銀行新宿西口支店 2049562 ・ 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

・ 振込銀行名 _____ ・ 送金人氏名 _____

・ 送金に関する問合せ先 担当者 _____ Tel. _____ - _____

第47回全国大会予約案内

第47回全国大会（平成5年後期）の講演論文集・参加・懇親会の「予約」を募集いたしますので、ぜひお申込みくださいますようお願い申し上げます。

期 日：平成5年10月6日（水）～8日（金）

会 場：鳥取大学工学部（鳥取市湖山町南）

論文集：B5判オフセット印刷 *論文集価格は消費税・送料込です

■第1分冊予約価 4,000 円（定価 6,000 円）

- 情報科学一般
- 基礎理論及び基礎技術
- ネットワーク
- 応用

■第2分冊予約価 4,000 円（定価 6,000 円）

- 人工知能及び認知科学
- 人工知能システム
- パターン認識
- 生体情報処理
- 感性情報処理
- データ処理
- 音声処理
- 画像・図形処理

■第3分冊予約価 4,000 円（定価 6,000 円）

- 人工知能及び認知科学
- 基礎理論
- 自然言語処理
- データ処理
- テキスト処理
- マルチメディア処理

■第4分冊予約価 4,000 円（定価 6,000 円）

- ソフトウェア
- 基礎理論
- オペレーティングシステム
- データベース・情報検索
- プログラミング技術
- 信頼性と安全性

■第5分冊予約価 4,000 円（定価 6,000 円）

- ソフトウェア
- プログラム言語及び仕様記述言語
- 言語処理系
- ツール
- ソフトウェア工学

■第6分冊予約価 4,000 円（定価 6,000 円）

- ハードウェア
- システム

■セット（上記6冊一揃、講演者索引・カバー付）予約価 24,000 円（定価 36,000 円）

参加費（プログラム・参加章含む）：会 員 1,000 円（賛助会員は正会員に準じます）

非会員 2,000 円、学生無料

申込締切：平成5年8月27日（金）必着

（締切後は予約扱いいたしませんので、ご了承ください）

会
告

第 47 回（平成 5 年後期）全国大会
論文集・参加・懇親会予約申込書

■申込締切：8 月 27 日（金）必着

分冊	予 約 金 (円)	部 数	金 額 (円)
第 1 分冊	4,000		
第 2 分冊	4,000		
第 3 分冊	4,000		
第 4 分冊	4,000		
第 5 分冊	4,000		
第 6 分冊	4,000		
セット（6冊一揃）	24,000		
参 加 費 (プログラム, 参加章含む)	会 員 1,000		
	非会員 2,000		
懇 親 会	4,000		
合 計			

平成 5 年 月 日 (論文集価格は消費税・送料込)
上記の通り予約いたします。

1. 代金は ☐郵便振替, ☐銀行振込* (該当に✓印) 送金月日 月 日
* 全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部, 情報処理学会講習会, 普通口座, No.0003774」

2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。
〔注意〕団体名でまとめて送金される場合には, 別紙に込金内訳を記入して, 事務局までお送りください。

通信欄:

3. 担当者名 Tel. () - (ex.)
4. 申込先: 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 F
(社)情報処理学会 全国大会係
Tel. (03) 5322-3535, Fax. (03) 5322-3534

----- (切りはなさないでください) -----
(楷書でハッキリ記入してください)

送本先
住所 
機関・
部課名
フリガナ
氏 名 殿 (会員番号)
Tel. () - (ex.), Fax. () -

〔部数〕(記入しないでください)
論 (1, 2, 3, 4, 5, 6, セ) プ, 参, 懇

「マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」論文募集

「マルチメディア通信と分散処理」に関する分野では、OSI やインターネットプロトコルを中心とした通信技術、マルチメディア通信、グループウェア、などの種々の分野について、活発な研究が行われております。本年3月に大分県湯布院で開催されたワークショップにおいても、33件の優れた論文が発表されただけでなく、活発な議論が行われました。研究活動を活発にするとともに、今後の研究のありかたの方向を探るために、このような合宿形式のワークショップを開いたわけですが、その有用性が確認できたことはいうまでもありません。本ワークショップにおいても、合宿形式により、論文発表とともに、広い範囲での多くの議論を行うことを目的としております。

日 時 平成5年11月17日(水)午後～11月19日(金)午前

場 所 山形蔵王温泉 白翠苑(農林年金ホテルチェーン)

主 催 情報処理学会マルチメディア通信と分散処理研究会

トピックス (主要なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれらに限りません。)

- ・高度情報通信ネットワーク
- ・高速通信
- ・マルチメディア通信
- ・通信プロトコル
- ・知的通信
- ・分散コンピューティング
- ・分散協調処理

実施方法

- (1) 学術的な研究論文のみならず、事例報告、問題提起などの論文も歓迎します。
- (2) 発表論文については、審査制とします。
- (3) 応募する場合には、論文内容がよく伝わるようなアブストラクト(400字程度)を平成5年8月20日(金)までに提出してください。その際に、題名、氏名、所属、連絡先、分野を示すキーワードも併記してください。
- (4) 採否の決定は、平成5年9月10日(金)までに連絡します。
- (5) 本論文は、和文または英文で、10枚以内(カメラレディ)とし、平成5年10月22日(金)までに提出してください。
- (6) 採択された論文を論文集に掲載します。

申 込 先 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 階
(社)情報処理学会ワークショップ係

Tel. (03) 5322-3535 Fax. (03) 5322-3534

問合せ先 432 浜松市城北 3-5-1

静岡大学工学部情報知識工学科 水野 忠則

Tel. (053) 475-6103 Fax. (053) 475-4595

E-mail: mizuno@cs. shizuoka. ac. jp

または

247 鎌倉市大船 5-1-1

三菱電機(株)情報システム研究所

エンジニアリングコンピュータ開発部 齋藤 正史

Tel. (0467) 41-2106 Fax. (0467) 41-2639

E-mail: marcy@ecs. isl. melco. co. jp

「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム」論文募集 ——マルチメディアデータベースシステム技術の現状と将来——

データベースシステム技術は情報処理システムの中核技術として近年その進歩は著しく、データベースはデータの単なる格納庫から脱却し、企業の様々な生産活動を直接支援するかけがえのない機能を果たすべく期待されている。特にデータベースのマルチメディア化への期待は大きく、データベースシステムは、従来の文字・数値データに加えてテキスト、図形、静止画像、動画像、音など、様々なデータを統合・一元管理できることを要求されている。しかしながら、現在そのためのマルチメディアデータベースシステム技術は確立されていない。そこで本シンポジウムでは、最近のマルチメディア・ハイパーメディアデータベースとその関連技術の現状を特集し、その将来を展望してみたい。本テーマに関係したトピックの論文投稿を多数お待ちしております。

日 時 平成 5 年 12 月 2 日 (木), 3 日 (金)
場 所 工学院大学 3 階 312 教室 (新宿区西新宿)

論文募集要領

1. トピック：特に上記主題に関するトピック、およびアドバンスト・データベースシステムの構築・管理・運用全般に関するトピック。
2. 応募論文は邦文または英文とし、応募時に Extended Abstract (図表・参考文献を含む) を提出する。論文長は、ワープロ A 4 判で 4~8 ページ程度 (邦文 6000 字, 英文 1600 語が目安) とする。
3. 応募論文 (Extended Abstract) は情報処理学会データベースシステム研究会が査読し採否を決定する。採録された場合、最終論文は論文長刷り上がり 10 ページ (邦文約 19000 字, 英文約 5000 語) を上限とし、会議録に収録されるとともに、シンポジウムで口頭発表する。
4. 応募論文 (Extended Abstract) は、そのコピー 3 部を下記に郵送あるいは持参する。
(社) 情報処理学会 アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム係
160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 階
Tel. (03) 5322-3535 Fax. (03) 5322-3534
5. スケジュール
論文 (Extended Abstract) 応募締切 平成 5 年 9 月 6 日 (月) 必着
採否通知 平成 5 年 9 月 29 日 (水) までに通知
カメラレディ最終論文提出締切 平成 5 年 11 月 1 日 (月) 必着
6. 問合せ先
 - ・増永良文 (図書館情報大)
Tel. (0298) 52-0511 Fax. (0298) 52-4326
E-mail : masunaga@ulis. ac. jp
 - ・鶴岡邦敏 (NEC)
Tel. (044) 856-2133 Fax. (044) 856-2233
E-mail : tsuruoka@btl. cl. nec. co. jp

本シンポジウムでは応募論文の発表のほかに、基調講演、招待講演、サーベイセッションなどを予定しています。また、シンポジウム開催日前日の 12 月 1 日 (水) には、同じ場所で講習会も予定しています。シンポジウムと講習会のプログラムや参加申込みなどにつきましては、今後本欄にてお知らせいたします。

「1994 年情報学シンポジウム」論文募集 ——マルチメディアと情報システム——

目 的 科学における情報の円滑な流通と高度利用を促進するため、データ・知識に関する基本的問題とその整備・利用に関するアイデアや経験を、研究者・開発者・利用者が共有し、交流をはかる。本シンポジウムは 1984 年以来毎年開催されている。

トピック マルチメディア技術の著しい進歩は、情報システムの構築・運用・利用に大きな影響を与えている。そこで、今回のシンポジウムでは、マルチメディアと情報システムに関する次の分野（限定はしない）をとりあげる。

- (1) マルチメディアを扱う基本システム：OS、通信システム、ファイルシステム、DBMS、言語アーキテクチャ、ウィンドウシステム、ほか
- (2) マルチメディア処理の基本技術：圧縮・伸長、拡大・縮小、認識、検索技術、入出力技術、ほか
- (3) マルチメディアを応用した情報システム：地図情報システム、文書管理システム、医用画像システム、プレゼンテーションシステム、CAI、情報家電、仮想現実、アミューズメントシステム、ほか
- (4) マルチメディアが情報システムの構築・運用・利用に与える影響
- (5) マルチメディア関連の標準化動向

共同主催（予定） 日本学術会議 情報学研究連絡委員会

学術文献情報研究連絡委員会

学術データ情報研究連絡委員会

情報工学研究連絡委員会

情報処理学会、人工知能学会、日本医学会、日本化学会、日本数学会、日本地理学会、日本物理学会、情報知能学会、日本生物物理学会

後 援（予定） 学術情報センター、計測自動制御学会、国際電信電話、情報科学技術協会、情報通信学会、電子情報通信学会、日本医療情報学会、日本科学技術情報センター、日本機械学会、日本金属学会、日本原子力学会、日本材料科学会、日本材料学会、日本生化学会、日本電信電話、日本動物学会、日本農学会、日本分子生物学会、日本分析化学会、日本薬学会、化学情報協会、ICOT

日 時 1994 年 1 月 18 日（火）～19 日（水）9：30～17：00

場 所 日本学術会議講堂 106 港区六本木 7-22-34（地下鉄千代田線、乃木坂駅）

講演申込方法

ワープロ使用で A 4 用紙 4～10 枚の論文と題目、氏名、連絡先、職名を記入した別紙を添えて下記に申し込む。

講演申込締切 1993 年 9 月 18 日（土）

採否通知 プログラム委員会で審査し、採否は 1993 年 10 月 1 日までに発送する。

最終原稿締切 1993 年 11 月 30 日（火）

参加申込 氏名、連絡先、職名、資料必要の有無をはがきに記入し、12 月 20 日までに下記に申し込む（当日受付もあるが、資料の不足の際は事前登録者を優先する）。

参 加 費 （資料代として）予定 共催学協会員 7,000 円、学生 2,000 円、一般 10,000 円

申 込 先 （社）情報処理学会 情報学シンポジウム係

160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 階

Tel. (03) 5322-3535 Fax. (03) 5322-3534

「DA シンポジウム '93」開催について

標記シンポジウムを下記の要領で開催いたします。参加ご希望の方は、期日までに必要事項を申込書に記入のうえお申し込みください。

日 時 平成5年8月26日(木) 12:00 受付開始(この日の昼食は用意しません) 13:00 開会～
28日(土) 12:00 散会

場 所 西浦温泉南風荘(愛知県蒲郡市西浦町)

Tel. (0533) 57-2101, Fax. (0533) 57-1744

交通路線バス: 東海道線蒲郡駅～西浦温泉 35分, タクシー: 同左 25分

主 催 情報処理学会 設計自動化研究会

参 加 費 研究会登録会員 32,000円, 会員 37,000円, 学生 20,000円, 非会員 42,000円
(宿泊費(2日目昼食, 消費税込み), 懇親会費を含む)

申込締切 7月30日(金)

連 絡 先 160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル

(社) 情報処理学会 DA シンポジウム係 Tel. (03) 5322-3535, Fax. (03) 5322-3534

注) 参加申込後, やむを得ず参加を取り消される場合は, 8月13日(金)までにお願ひします。取り消しの連絡のない場合は, 準備の都合上, 参加費を徴収させていただきます。

~~~~~プ ロ グ ラ ム~~~~~

第1日 8月26日(木)

受付開始(12:00～)

開 会(13:00～)

<会場 A>

セッションA-1 高位・論理合成(1)(13:30～15:00)

An ASIP Instruction Set Optimization Algorithm With Execution Cycle Constraint

Alauddin ALOMARY, Takeharu NAKATA, Yoshimichi HONMA, Masaharu IMAI (Toyohashi

University of Technology), Nobuyuki HIKICHI (Software Research Associates, Inc.)

ハイレベル合成実験システム RODIN

間藤 隆一, 荒木 均, 加藤 等, 野島 晋二(松下電器)

Layout-Driven Module Selection for Register-Transfer Synthesis of Sub-micron ASICs

V, Moshnyaga, Y.Mori, K.Tamaru (Kyoto University)

— (15:00～15:30) —

セッションA-2 高位・論理合成(2)(15:30～17:00)

意味単一化子を利用したマイクロプログラム自動合成手続き

木下 貴史(豊橋技科大), 直井 徹(岐阜大), 今井 正治(豊橋技科大)

ASIP 向きハードウェア/ソフトウェアコデザインシステム PEAS-I のハードウェア生成系

中田 武治(豊橋技科大), 佐藤 淳(鶴岡工業高専), 塩見 彰睦,

今井 正治(豊橋技科大), 引地 信之(SRA)

含意グラフを利用した多段論理回路最適化手法

湯口 雅之, 若林 一敏, 藤田 友之(NEC)

<会場 B>

セッションB-1 自動レイアウト(1)(13:30～15:00)

フロアプランニングにおける階層構造最適化に関する一考察 玉柏 和男, 山内 貴行, 神戸 尚志(シャープ)

ミニカット法に基づく遅延考慮配置手法

小林 進, 石川 正樹, 藤田 友之(NEC)

レイアウト要素の形状自由度を考慮したコンパクション手法

岡田 和久, 小野寺秀俊, 田丸 啓吉(京大)

— 休憩 (15:00～15:30) —

セッションB-2 自動レイアウト(2)(15:30～17:00)

GLORIA: セル上配線を考慮したスタンダードセル概略配線システム

小出 哲士, 鈴木 武志, 若林 真一, 吉田 典可(広島大)

ネットワークフローに基づくフィードスルー割当アルゴリズム

岡本 匠, 石川 正樹, 藤田 友之(NEC)

高速 LSI 用チャネル配線プログラム

武井雄一郎, 原田 育生, 北沢 仁志 (NTT)

— 夕 食 (18:00~19:30) —

イブニング討論 (予定) (19:30~22:00)

- ・企業における CAD 研究開発のあり方
- ・並列処理 DA
- ・HDL (ハードウェア記述言語)/論理合成は役に立つのか
- ・大学における LSI 設計教育環境について

第 2 日 8 月 27 日 (金)**<会場 A>****セッション A-3 CAD フレームワーク (8:30~10:00)**

複数の CAD フレームワークへのツール組み込み共通化方式

安田 光宏, 高瀬 和彦 (三菱)

協調設計支援システム (COMET) における設計プロダクト管理手法

細田 泰弘 (NTT)

機能レベルプロシージャルインターフェース手法とその評価

岩崎 知恵, 川口 謙一, 福井 正博, 村岡 道明 (松下電器)

— 休 憩 (10:00~10:20) —

セッション A-4 回路設計支援 (1) (10:20~11:50)

VHDL モデルによる PKG シミュレーション

大森 健太 (NEC), 松岡ゆきお,

長谷川光二, 前田 和宏 (NEC ソフトウェア神戸), 田中 利明, 廣瀬 隆雄, 藤浪 克美 (NEC)

論理合成向き仮想遅延の検証精度向上

野地 保, 濱田 英幸, 浦野 真帆 (三菱)

拡張 Verilog-HDL を用いたデータパス・ライブラリの構築法

近藤 芳人, 山崎 孝雄, 岩瀬清一郎 (ソニー)

— 昼 食 (11:50~13:00) —

セッション A-5 検証 (13:00~14:00)

同期式順序回路の設計検証例

森岡 澄夫, 北道 淳司, 東野 輝夫, 谷口 健一 (阪大)

パイプライン制御プロセッサの形式検証

庄内 亨, 清水 嗣雄 (日立)

セッション A-6 並列処理 CAD (1) (14:00~15:00)

マルチワークステーション上の並列 DA システム

一大規模並列マシンへの移行性を考慮した実行環境と DA システム—

瀧 和男, 小西 健三 (神戸大)

汎用エンジン RM-II とその応用

富田 昌宏, 菅沼 直昭, 澄川 文徳, 平野浩太郎 (神戸大)

— 休 憩 (15:00~15:30) —

セッション A-7 機能設計支援 (15:30~18:00)

COACH: 計算機アーキテクチャ設計システム

赤星 博輝, 安浦 寛人 (九大)

Archimmedes におけるメタ記述を用いた high level Simulation のアプローチ

小田原都子, 栗山 和則, 坪島 麻子 (日立)

動作機能図入力システム Bchart の評価

仲谷 和恵, 高井 裕司, 松本 道弘, 岩崎 知恵, 村岡 道明 (松下電器)

設計初期における概略ディレイ評価の一手法

芳野 泰成, 清水 嗣雄 (日立)

トップダウン設計方式の信号処理 LSI 設計への適用

高橋 瑞樹, 山口 雅之, 野田 浩明, 竹田 信弘, 藤本 徹哉, 神戸 尚志 (シャープ)

<会場 B>**セッション B-3 テスト (8:30~10:00)**

非冗長組合せ回路と極小テスト集合の同時生成について

梶原 誠司, 樹下 行三 (阪大)

クロスチェック技術の適用例と一考察

伊藤 秀昭 (沖電気)

論理関数処理によるスキャン設計順序回路に対するコンパクトなテスト系列の生成

樋口 博之 (富士通研), 濱口 清治, 矢島 脩三 (京大)

— 休憩 (10:00~10:20) —

セッション B-4 BDD (10:20~11:50)

大きな共有二分決定グラフを扱うための幅優先アルゴリズム

越智 裕之, 安岡 孝一, 矢島 脩三 (京大)

異なる内部変数を持つ論理関数の BDD 上での比較について

木村 晋二 (奈良先端科技大学院大)

非共有記憶型並列計算機での二分決定グラフの並列処理アルゴリズムについて

木村 晋二 (奈良先端科技大学院大), 松本 高明, 羽根田博正 (神戸大)

— 昼食 (11:50~13:00) —

セッション B-5 FPGA (13:00~14:00)

配線密度と線長分の均一化を指向する新しい配置配線手法の提案—FPGA の配置配線問題への適用例—

中武 繁寿, 梶谷 洋司 (北陸先端科学技術大学院大)

FPGA を対象とした配置概略配線同時処理手法

戸川 望, 佐藤 政生, 大附 辰夫 (早大)

セッション B-6 モジュールジェネレータ (14:00~15:00)

高性能モジュールコンパイラ

黒沢 幸子, 山田 正昭, 野島 玲子, 三橋 隆 (東芝)

モジュールジェネレータ開発容易化手法—設計手順の保存と再利用化—

森江 隆史 (京大), 山下 直也 (東洋エンジニアリング), 小野寺秀俊, 田丸 啓吉 (京大)

—休憩 (15:00~15:30)—

セッション B-7 回路設計支援 (2) (15:30~18:00)

回路図面自動生成における素子配置の一手法

中谷 隆, 米澤 典剛 (NEC)

アナログ回路コンパイラ用の回路図表示

西 芳弘, 武内 良典, 伊東 正安 (農工大)

設計知識と最適化手法を併用したアナログ集積回路自動設計システムの試作

河野 道成, 山口 二男, 盧 金勤 (ソニー), 足立 武彦 (横浜国大)

ASIC 設計におけるライブラリデータ検証の自動化

加藤 哲也, 中西 早苗, 豊田 徹, 山口 高, 佐久間 洋 (NEC)

高速・高精度ポストレイアウトシミュレーションのための回路データ削減手法とその一例

菅原 康紀 (沖電気)

懇親会 (19:00~)

第 3 日 8 月 28 日 (土)

<会場 A>

セッション A-8 並列処理 CAD (2) (8:30~10:00)

温度並列シミュレーテッドアニーリング法に基づくスタンダードセル配置プログラム

伊達 博 (新世代コンピュータ技術開発機構), 瀧 和男 (神戸大)

領域分割型並列配線における負荷均等化手法

菊池 淳, 白石 洋一 (日立)

プロセッサ競合方式による並列自動配線—品質改善の試み—

佐野 雅彦 (徳島大)

—休憩 (10:00~10:20)—

招待講演 (10:20~11:50)

並列計算機の研究開発動向

富田 眞治 (京大)

第 26 回情報科学若手の会シンポジウム開催のご案内

日 時	1993 年 8 月 3 日 (火) 13:00 より 5 日 (木) 13:00 まで
場 所	ホテル華の湯 (仙台市・秋保温泉 Tel. (022)397-3141)
定 員	50 名
内 容	(1) 分野を限定した研究会やシンポジウムとは異なり, 情報科学全般の分野の若手研究者が集まり, 形式や成果にとらわれず自由な討論をおこなう場 (2) 未完成であっても, 将来に影響を与えるような, 話題を歓迎します
参加資格	情報科学および関連分野で, 研究・実務に携わっている若手研究者・技術者
参 加 費	22,000 円 (食費込み, 遠方からの参加者には交通費一部補助)
参加申込	A 4 判の用紙に氏名, 所属, 連絡先, 電話番号, E-mail アドレス, 発表題目, 発表内容の要旨を記入して送付のこと. E-mail でも受け付けます.
申込締切	1993 年 7 月 20 日
問合せ先	980 仙台市青葉区片平 2-1-1 東北大学電気通信研究所 電気通信方式部門 若手の会幹事 佐藤 究 Tel. & Fax. (022)212-1479, E-mail : wakate@riec. tohoku. ac. jp

「DA シンポジウム '93」

参加申込書

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○で囲む）

研究会登録会員 32,000 円，会員 37,000 円，学生 20,000 円，非会員 42,000 円

* 参加費には資料代が含まれています。

○論文集のみ（5,000 円，送料込）____冊

○送金方法（該当するものを○で囲む）

合計____円を

a) 当日，会場受付にて支払います。

b) 現金書留で____月____日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

1. 第一勧銀新宿西口支店 2049562

2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 社団法人 情報処理学会

・送金人名義____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通

請求先____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先・送金先（Fax. も可）

情報処理学会 シンポジウム係

160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 F

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

○アンケート（部屋割りの参考にします）

(1) たばこ：□すう □すわない

(2) 年 齢：□20 代 □30 代 □40 代 □50 代以上

(3) その他ご要望があればお書きください。

（楷書でハッキリ記入してください）

申込者
連絡先〒_____

機関・
部課名_____

フリガナ
氏 名_____ 殿（_____）（□男性・□女性）

会員番号

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

会
告

「グラフィクスと CAD」シンポジウム開催について ——コンピュータグラフィクスの新たな展開——

標記シンポジウムに、多数の論文をご応募いただきありがとうございました。目下鋭意論文審査を行っております。このシンポジウムは下記の要領で開催いたしますので、多数の方々のご参加をお願いいたします。

- 日 時 平成 5 年 9 月 21 日 (火) 9 時～17 時 30 分 (18 時より懇親会)
9 月 22 日 (水) 9 時～17 時 30 分
- 場 所 工学院大学 3 階 312 教室 (JR 新宿駅西口から地下通路京王プラザ方面徒歩 4 分,
新宿区西新宿 1-24-2, Tel. (03) 3342-1211)
- 主 催 情報処理学会グラフィクスと CAD 研究会
- 参 加 費 正会員 15,000 円, 非会員 25,000 円, 学生会員 5,000 円 (いずれも論文集を含む)
懇親会参加費 3,000 円, 論文集のみ 5,000 円 (送料込)
- 申込締切 平成 5 年 9 月 10 日 (金) (定員 180 名になり次第締め切らせていただきます。論文集のみの方は、印刷部
数に限りがありますので、なるべく早目にお申込みください。)
- 申 込 先 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 F
(社)情報処理学会「グラフィクスと CAD」シンポジウム係 Tel. (03) 5322-3535, Fax. (03) 5322-3534

予定プログラム

第 1 日 9 月 21 日 (9:00～17:30)

論文発表 6 件程度

招待講演 金子 満 (エムケイ) エンタテインメント産業における CG アニメーションの現状

パネル討論 司会 笹田 剛史 (阪大) 都市の CAD と景観シミュレーション

第 2 日 9 月 22 日 (9:00～17:30)

論文発表 14 件程度

*詳細は次号本欄に掲載いたします。

平成 5 年度会費・論文誌購読費の納入について (お願い)

本年度の会費・購読費未納の方には、6 月下旬に郵便振替用紙を発送いたしました。会費・購読費は前納を原則としておりますので、未納の方は早急にご納入くださいますようお願いいたします。

なお、7 月末日までにご納入いただけない場合は、9 月から学会誌・論文誌の発送を停止させていただきます。後日ご納入いただいても、停止期間の学会誌・購読誌をお送りできないこともありますのでご了承ください。

〔自動振替納入ご利用の方へ〕

去る 3 月 29 日に振替未済の方は、7 月 27 日に再振替いたします。

振替金額は 7 月上旬にあらためてご通知いたしますので、預金残高をご確認いただき、振替額不足にならないようご留意ください。振替された場合には、預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」「コウザブリカエ」または「DF・ジョウショカイヒ」と印字されます。

「グラフィクスとCAD シンポジウム」

参加申込書

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○で囲む）

正会員 15,000 円 非会員 25,000 円 学生会員 5,000 円

*参加費には論文集代が含まれています。

*当日欠席された場合も参加費をいただきます。

○懇親会参加費 3,000 円

○論文集のみ（5,000 円，送料込） _____ 冊

○送金方法（該当するものを○で囲む）

合計 _____ 円を

a) 当日，会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____ 月 _____ 日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

1. 第一勧銀新宿西口支店 2049562

2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 社団法人 情報処理学会

送金人名義 _____ 様

*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先・送金先（Fax も可）

情報処理学会 シンポジウム係

160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 F

Tel. (03) 5322-3535, Fax. (03) 5322-3534

（楷書でハッキリ記入してください）

申込者
連絡先 〒 _____

機関・
部課名 _____

フリガナ _____ 会員番号 _____
氏 名 _____ 殿 (_____)

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

〈国内会議〉

第 51 回産業用ロボット利用技術講習会

平成 5 年 7 月 15 日 (木) ～16 日 (金)

大阪府社会福祉会館

講習会「カオス力学系に現れる秩序, 無秩序, そして複雑さへの挑戦」

平成 5 年 8 月 10 日 (火) ～12 日 (木)

東京・野口英世記念会館

高専情報処理教育研究委員会第 13 回研究発表会

平成 5 年 8 月 24 日 (火)

静岡・三島グランドホテル

第 5 回テクニカルコミュニケーションシンポジウム

平成 5 年 8 月 26 日 (木) ～27 日 (金)

東京・工学院大学

第 199 回講習会「急成長が期待される液晶ディスプレイと製造装置」

平成 5 年 9 月 2 日 (木)

東京工業大学

平成 5 年度第 2 回 OR セミナー「離散系シミュレーション」

平成 5 年 9 月 10 日 (金)

東京・早稲田大学

画像計測シンポジウム

平成 5 年 9 月 17 日 (金) ～18 日 (土)

山口・ときわ湖水ホール

講習会「カオス理論の基礎と工学への応用」

平成 5 年 9 月 28 日 (火)

大阪大学

セミナー「遺伝アルゴリズム/ニューラルネット/ファジィの新しい展開を探る」

平成 5 年 9 月 29 日 (水) ～30 日 (木)

大阪・なにわ会館

平成 5 年 10 月 5 日 (火) ～ 6 日 (水)

東京・ダイヤモンド社

'93 視覚と空間認知への総合的アプローチシンポジウム

平成 5 年 10 月 7 日 (木) ～8 日 (金)

京都・けいはんなプラザ

第 11 回流体計測・第 8 回流体制御合同シンポジウム

平成 5 年 11 月 24 日 (水) ～25 日 (木)

東京・明治大学

第 12 回光波センシング技術研究会

平成 5 年 12 月 15 日 (水) ～16 日 (木)

川崎市産業振興会館

〈国際会議〉

第 3 回人工現実感とテレイグジスタンス国際会議

1993 年 7 月 6 日 (火) ～7 日 (水)

東京・スフィアメックス

平成 5 年情報化月間行事国際シンポジウム「インフォテック'93」

1993 年 11 月 10 日 (水) ～12 日 (金)

大阪・毎日新聞ビル

Workshop on Mobile Multimedia Communications

1993 年 12 月 8 日 (水) ～10 日 (金)

東京・早稲田大学

1994 年自動車ナビゲーション・情報システム国際会議

1994 年 8 月 31 日 (水) ～9 月 2 日 (金)

パシフィコ横浜

* 詳細は本号会議案内欄参照

Rengo 93

平成 5 年電気・情報関連学会連合大会の開催案内

——技術と人間との新しい調和を目指して——

本連合大会は電子情報通信学会、電気学会、情報処理学会、照明学会、テレビジョン学会が毎年共同して主催する大会で長い歴史がありますが、昨年から大幅な改革を行い、関連 5 学会の会員が共通して興味を持てるテーマあるいは学際的テーマを選び、新しい形の大会をめざしております。

本年は統一テーマとして「技術と人間との新しい調和を目指して」を掲げ、人間にやさしい技術、人間や自然から学ぶ技術の最新動向を下記の 5 つのテーマを中心として、それぞれの分野の第一線で御活躍の専門家が分かり易く講演致します。多数の学会員、また一般の方々の御参加をお待ち致しております。

会 期 平成 5 年 8 月 30 日(月)～31 日(火)

会 場 早稲田大学理工学部 (東京都新宿区大久保 3-4-1)

統一テーマ 技術と人間との新しい調和を目指して

特別講演 30 日(月) 午後 1 時 30 分～3 時 10 分

「地球と人間と科学技術」講師 西沢潤一 (東北大学学長)

日本学術会議 30 日(月) 午後 3 時 20 分～5 時 30 分

シンポジウム 「高度情報社会を展望した人材養成課題

—電子・通信・情報・電気工学の観点から— 座長 池田博昌 (NTT)

1. 通信産業構造の変化と人材養成 [総論を含む] ……講師 戸田 巖 (富士通)

2. 電子工学における人材養成

……………講師 小野雅敏 (電子技術総合研究所)

3. 情報工学における我が国の学術・産業の水準と人材養成

……………講師 安田靖彦 (早稲田大学)

4. 最近の電気系学生気質と大学教育、及び社会人教育

……………講師 家田正之 (愛知工業大学)

講演 下記の 5 つのテーマに基づき、30 の講演が行われます。

講演日程は次頁の大会日程表を御参照下さい。

A. 通信のパーソナル化と社会環境

B. 21 世紀のエネルギーと電気を探る

C. 人と自然との調和を目指した情報処理

D. 人間生活と光関連放射

E. 情報記録の超高密度化に挑む

大会参加費 会員 2,000 円、学生 1,000 円、会員外 3,000 円

参加は当日も受け付けますが、下記の予約申込書でご予約いただきますと大会前にプログラムと参加章を送付致します。

講演論文集 オフセット印刷により講演論文集を出版し、予約販売および会場販売をします。

論文集予約については下記の予約案内を参照して下さい。

価格 全 1 冊 10,000 円 (ただし、大会参加の学生は 2,000 円)

懇親会 日 時 8 月 30 日(月) 午後 6 時～8 時

会 場 早稲田大学生協 理工カフェテリア

参加費 一般 4,000 円 学生 2,000 円

問合先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 202

(社)電子情報通信学会 連合大会係 TEL 03(3433)6691 FAX 03(3433)6659

主 催 電子情報通信学会/電気学会/情報処理学会/照明学会/テレビジョン学会

平成 5 年電気・情報関連学会連合大会日程

会 場	使用教室	8 月 30 日（月）午前	8 月 30 日（月）午後	8 月 31 日（火）午前	8 月 31 日（火）午後
		9 時 30 分～12 時 30 分	1 時 30 分～5 時 30 分	10 時～12 時	1 時 30～5 時
第 1 会 場	57 号館 201 教室	E. 情報記録の超高 密度化に挑む	・特別講演 ・日本学会議 シンポジウム	C. 人と自然との調和を目指した情報処理	
第 2 会 場	57 号館 202 教室	D. 人間生活と光関 連放射	—————	A. 通信のパーソナル化と社会環境	
第 3 会 場	56 号館 103 教室	—————	—————	—————	B. 21 世紀のエネル ギーと電気を探る
大会および懇親会場の所在地 東京都新宿区大久保 3-4-1 早稲田大学理工学部キャンパス			懇 親 会 会場「カフェテリア」 (大学構内) 6 時～8 時		

講演プログラム

A. 通信のパーソナル化と社会環境

8 月 31 日・10 時～16 時 15 分

講演 質疑
時間 時間

座長 水澤純一 (NTT)

10 分

- A-1. 社会環境経済環境からみた通信が果たすべき役割と期待
.....水町守志 (東京大学) 25 分
- A-2. 通信のパーソナル化を支えるネットワーク技術.....小川圭祐 (NTT) 25 分
- A-3. プライベートライフおよび自然環境と通信のパーソナル化への期待
.....守田直哉 (松下通信工業) 25 分
- 質 疑 30 分
- A-4. 通信のパーソナル化に求められるプライバシー・
セキュリティ技術と現状.....松本 勉 (横浜国立大学) 25 分
- A-5. 通信のパーソナル化を推進する耐電磁環境技術.....高木 相 (東北大学) 25 分
- A-6. パーソナルメディアとしての IC カード.....牟田敏保 (NTT) 25 分
- A-7. ビジネスライフにおける通信のパーソナル化の役割と期待
.....高木浩一 (沖電気工業) 25 分
- A-8. 通信のパーソナル化が開拓するビジネスマーケット
.....中田義直 (日本 AT&T) 25 分

質 疑

40 分

B. 21 世紀のエネルギーと電気を探る

8 月 31 日・13 時 30 分～17 時

講演 質疑
時間 時間

座長 上之園親佐 (京都大学)

5 分

- B-1. 21 世紀のエネルギー需給の展望.....上之園 博 (電力中央研究所) 30 分

B-2.	核燃料サイクルとその周辺	鈴木篤之（東京大学）	30分
B-3.	宇宙太陽発電所の構想	伊藤精彦（北海道大学）	30分
休 憩（10分）			
B-4.	高密度都市への電力輸送	沢田知義（東京電力）	30分
B-5.	省エネルギーと電気利用	柏木孝夫（東京農工大学）	30分
B-6.	欧米における電力事情の動向	飯沼芳樹（海外電力調査会）	30分
	総合討論		15分

C. 人と自然との調和を目指した情報処理

8月31日・10時～16時

		講演 時間	質疑 時間
座長 村岡洋一（早稲田大学）			
C-1.	Early Vision Chips	松本 隆（早稲田大学）	30分 5分
C-2.	脳における情報処理	熊沢逸夫（東京工業大学）	30分 5分
C-3.	コンピュータビジョンー3次元シーンの理解ー	横矢直和（奈良先端科学技術大学院大学）	30分 5分
C-4.	リアルワールドコンピューティング	古谷立美（新情報処理開発機構）	30分 5分
C-5.	遺伝的アルゴリズム(GA)とその応用	小長谷明彦（NEC）	30分 5分
C-6.	コンピュータウイルスの現状と対策	岡本栄司（北陸先端科学技術大学院大学）	30分 5分
C-7.	地球環境監視のための情報処理	瀬戸洋一（日立製作所）	30分 5分

D. 人間生活と光関連放射

8月30日・9時30分～12時30分

		講演 時間	質疑 時間
座長 沖 允人（足利工業大学）			
D-1.	光と色の心理・生理	池田光男（京都大学）	30分
D-2.	計測用受光素子の現状と開発	伊藤守行（浜松ホトニクス）	40分
D-3.	紫外・赤外放射環境と人間生活	森田政明（松下電器）	40分
D-4.	光放射環境と人・植物	相賀一郎（大阪府立大学）	40分
	総括質問		25分

E. 情報記録の超高密度化に挑む

8月30日・9時30分～12時30分

		講演 時間	質疑 時間
座長 三浦義正（富士通）			
E-1.	デジタルVTRの現状と将来	大場吉延（NHK）	30分 5分
E-2.	磁気記録の高密度化	法橋滋郎（ソニーマグネプロダクツ）	30分 5分
E-3.	高密度光ディスク	岩永敏明（NEC）	30分 5分
E-4.	光化学ホールバーニングメモリの可能性	村瀬至生（日立製作所）	30分 5分
E-5.	プローブ顕微鏡を用いた超高密度記録技術	保坂純男（日立製作所）	30分 5分

平成 5 年電気・情報関連学会連合大会 講演論文集および大会参加の予約募集

参加申込と講演論文集の予約募集を行いますので、参加を予定されている方は事前にご予約下さいますようお願い申し上げます。

参加をご予約頂きました方々へは、プログラムと参加章を出来上がり次第、お送り致します。また、参加予定の方が、講演論文集のご予約をされた場合には論文集引換券をお送りし、会場で講演論文集とお引換え致します。

下記の要領により予約受付を致しますので、お早めにお申込み下さいますようお願い申し上げます。

予約申込締切 平成 5 年 7 月 30 日 (金)

申込先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 202

(社)電子情報通信学会 連合大会論文集予約係

TEL 03-3433-6691, FAX 03-3433-6659

申込方法 送金方法によって若干異なります。

(1) 現金書留で送金の場合

- 予約申込書 (コピーも可) を同封してお申込下さい。

(2) 郵便振替で送金の場合

- 局所定の用紙を利用, 東京 2-35300 (社)電子情報通信学会宛

- 振替用紙の通信欄に送金明細と送付先をご記入下さい。

- 振替用紙は予約申込書にはなりませんので別途, 予約申込書 (コピーも可) を連合大会係宛郵送して下さい。

(3) 銀行振込で送金の場合

- 振込口座

三菱銀行虎の門公務部〔普通 0000548〕, 富士銀行〔当座 6251〕,

住友銀行〔当座 263046〕, 第一勧業銀行〔当座 0105595〕の各虎の門支店の

(社)電子情報通信学会宛

- 別途, 予約申込書 (コピーも可) を連合大会係宛郵送して下さい。

(4) 学校, 官公庁で所定の見積書, 納品書, 請求書などが必要な場合は申込時に関係書類を連合大会係宛お送り下さい。

(5) 予約申込書が必要な方は上記の申込先まで御請求下さい。

—訂正とお詫び—

6 月号会告の「平成 5 年電気・情報関連学会連合大会講演論文集および大会参加の予約募集」の記事中, 一部に誤りがありました。お詫び申し上げますとともに下記のように訂正させていただきます。

会告 38 ページ中の第一勧業銀行虎ノ門支店の口座番号は〔当座 0105595〕に訂正します。

平成5年電気・情報関連学会連合大会
講演論文集ならびに大会参加予約申込書

予約申込締切日 7月30日(金)

ふりがな		勤務先(送付先) TEL ()
氏名		
所属学会		

該当する欄の□に✓印を記入して下さい。

予 約 受 付		金 額	備 考
大会参加費	会員	☐ 2,000円	
	学生(大学院含)	☐ 1,000円	
	会員外	☐ 3,000円	
講演論文集		☐ 10,000円	☐ 会場での受取を希望
	参加する学生のみ	☐ 2,000円	☐ (大会終了後)送付を希望
合計金額		円	

(講演論文集は消費税、送料込み)

平成5年 月 日
上記のとおり予約致します。

- 1. 代金は☐現金〔現金書留〕, ☐郵便振替, ☐銀行振込(該当に✓印) 送金月日 月 日
- 2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。
(所定用紙があればお送り下さい。)
- 3. ご担当者名 TEL (内線)
- 4. 申込先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 202
(社)電子情報通信学会 連合大会論文集予約係
TEL 03-3433-6691, FAX 03-3433-6659

..... (切り離さないで下さい)

(送付・送本先)〔楷書でハッキリお書き下さい。〕

〒

氏名 様 TEL

「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を採択

平成 5 年 5 月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月21日から23日まで第116回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び同総会で採択された「学術分野における国際貢献についての基本的提言」等についてお知らせいたします。

日本学術会議第116回総会報告

日本学術会議第116回総会（第15期・第5回）が、4月21日～23日の3日間にわたって開催された。

総会の初日の午前には、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、各部、各委員会等の報告が行われた。次いで、今回総会に提案されている2案件について、それぞれ提案説明がなされた後、質疑応答が行われた。

午後からも提案案件に対する質疑応答が行われた後、引き続き各部会が開催され、午前中に提案説明された総会提案案件の審議が行われた。

総会2日目の午前は、前日提案された2案件及び緊急に提案された1案件の審議・採決が順次行われた。

まず、「国際対応委員会の改組について（申合せ）」が採択された。これは、学術の国際化の急速な進展に伴い、国際学術団体及び国際学術協力事業への対応の重要性がますます増大してきており、日本学術会議としてもその職務を遂行する上で、学術の国際化に関する状況の迅速かつ的確な把握が不可欠であるという観点から、より広範囲にわたる国際学術情報の収集と、それに基づく適切な対応ができるよう、国際対応組織の充実強化を図るために、必要な措置を講じたものである。

次いで、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」が採択された。本件については、日本学術会議第15期活動計画の中の重点目標として掲げられており、また、一昨年秋の第113回総会において内閣官房長官から、「学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう」求められ、以来、日本学術会議における重要案件として鋭意審議してきたものである。

提言は、1. 学術分野における国際貢献の意義、2. 学術分野における国際貢献の在り方、3. 学術分野における国際貢献を進めるための提案という構成内容になっており、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、具体的な諸課題について検討していくこととしている。

最後に、上記の提言に基づき、日本学術会議は、国際貢献のための新しいシステムを構築するための具体的方策を直ちに検討し、その速やかな推進を図るという内容の「学術分野における国際貢献についての基本的提言に関する附帯決議」が採択された。

また、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」に関する会長談話を22日付けで発表した。

午後からは、現在、常置委員会、特別委員会で審議されている懸案事項について、自由討議が行われた。

総会3日目は、午前は各特別委員会、午後は各常置委員会・国際対応委員会がそれぞれ開催された。

なお、近藤会長が、4月22日に河野内閣官房長官と、また、同27日に宮澤内閣総理大臣とそれぞれ会見し、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を手渡すとともに、同提言について報告した。

学術分野における国際貢献についての基本的提言（抜粋）

（前文略）

1. 学術分野における国際貢献の意義

（本文略）

2. 学術分野における国際貢献の在り方

（本文略。項目のみ）

- (1) 対等・互恵の原則に基づいた国際学術協力の強化
- (2) 国際学術協力の積極的発議等
- (3) 人材育成への協力による国際貢献の推進
- (4) 我が国の学術情報の提供・紹介の促進
- (5) 学術に関する国際団体への対応強化

3. 学術分野における国際貢献を進めるための提案

前節で述べた我が国の学術分野における国際貢献の在り方を踏まえ、これを推進していくために、以下の事項を提案する。

(1) 我が国からの情報提供機能等の充実・強化

① 学会の支援・育成

我が国の学会は、高等教育研究機関や産業界の研究発表の場として重要な役割を果たしてきた。また、研究者相互の活発な国際交流等を通じて、情報の提供に努めているところである。しかしながら、ほとんどの学会は、資金の不足から、必要な活動も十分にできない状況にある。

学術分野における国際貢献という観点において、非政府機関（NGO）としての学会の果たす役割は極めて大きく、それらが有する情報提供機能を最大限に発揮できるよう、学会の支援・育成を図る必要がある。

② アジア地域における学術研究に関する連携の強化

我が国と地理的・歴史的・文化的な関係の深いアジア地域の学術の発展に資するため、アジア地域の科学者や学術研究機関の間の学術研究ネットワークを拡充・強化することが必要である。また、将来的には、アジアの学術振興のための国際的な組織の在り方について、関係各国の科学者と協議していく必

要がある。

(2) 国際学術交流のための支援の充実

① 学術研究機関の整備等

新しい知識の創造と発展は、優れた研究者が集い、切磋琢磨するところから生まれるものであり、研究者の未知への挑戦に対して最も適切な施設・資金・支援システムなどの研究環境を提供することが必要である。したがって、全世界の研究者が日本で研究することに魅力を感じ、充実した研究生生活が送れるように、学術研究機関の整備及び適切な運営を図るべきである。

② 来日研究者・留学生への支援の充実

学術分野における国際貢献の第一歩として、各国の人材育成への協力、とりわけ来日研究者・留学生の支援に十分な配慮がなされなければならない。したがって、内外における日本語教育の充実や、来日研究者・留学生の住居、日本人研究者・学生や地域の人々との交流を可能とする交流施設など生活・文化施設の整備・充実を早急に図るべきである。

③ 海外派遣研究者への支援の拡充

国際学術交流は、相手国の国情に応じた総合的配慮の下に行われる必要がある。したがって、その国の研究者との恒常的な連携・協力を維持するとともに我が国からの海外派遣研究者が必要とする各種情報の提供や連絡・調整などもできる人材の当該国への配置など、海外派遣研究者の支援体制の拡充を検討する必要がある。

(3) 学術分野における国際貢献のための新しいシステムの構築

国際的な学術協力については、我が国においても、既に多くの機関がその努力を重ねているところである。しかしながら、投入されている資金等そのための支援は、質・量ともに、未だ国際的な要求に応える水準にまで達しているとは言えない。しかも、現在個別に推進されている学術協力の相互の連絡・調整は、必ずしも十分ではなく、我が国の総力を挙げてこれを推進しているとは言えない状態にある。

また、今後ますます増えていくと思われる各種の国際的な学術協力プロジェクトの立案や協力、参加、推進については、これまで以上に、科学者の総意を反映しつつ、総合的かつ適切な判断を機動的になし得る場を確保しなければならない。

さらに、我が国が国際的な学術協力のための諸施策を強力に推進するためには、科学者の力のみならず、政府・産業界の協力、更には国民の理解等総合的な支援が必要である。

これらの問題点を改善し、学術分野において国際社会の期待に応える貢献をなし得るように、国民の理解の下に、諸課題の整理、必要な資金の確保・配分等を行う新しいシステム（例えば「学術協力機構」）を構築するなど、今後真剣に検討を進める必要がある。

終わりに

日本学術会議は、人類共通の資産としての学術の発展こそが人類の繁栄と世界の平和の礎となるとの見地から、本提言を取りまとめたものである。

なお、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、内外の科学者を始め、広く関係各方面の意見を聴きながら、具体的な諸課題について引き続き検討していくことを付言したい。

平成 5 年(1993 年)度共同主催国際会議

日本学術会議では、我が国において開催される学術関係国際会議のうち毎年おおむね 6 件について、学・協会と共同主催している。

本年もまた、6 件の国際会議を共同主催することとしており、その概要は、次のとおりである。

◆第 7 回太平洋学術中間会議(6 月 27 日～7 月 3 日)

太平洋地域の住民の繁栄と福祉に直接関わる学術上の問題に関する研究を発展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として宜野湾市(沖縄コンベンションセンター、沖縄都ホテル、メルパルク沖縄)において開催される。

参加予定人数 500 人(国外 300 人、国内 200 人)、参加予定国数 29 か国。

◆第 6 回国際気象学・大気物理学協会科学会議及び第 4 回国際水文科学協会科学会議合同国際会議(7 月 11 日～23 日)

気象学、大気物理学及び陸水・水文科学に関する研究を発展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数 1,500 人(国外 700 人、国内 800 人)、参加予定国数 68 か国。

◆第 15 回国際植物科学会議(8 月 23 日～9 月 3 日)

植物科学に関する研究を発展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数 4,000 人(国外 1,500 人、国内 2,500 人)、参加予定国数 81 か国。

◆第 24 回国際電波科学連合総会(8 月 23 日～9 月 3 日)

電波科学に関する研究を発展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市(国立京都国際会館)において開催される。

参加予定人数 1,200 人(国外 800 人、国内 400 人)、参加予定国数 49 か国。

◆アジア社会科学研究協議会連盟第 10 回総会

(9 月 5 日～11 日)

アジア・太平洋地域における社会科学の教育、研究、訓練及び普及を促進するため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として川崎市(かながわサイエンスパーク)において開催される。

参加予定人数 120 人(国外 60 人、国内 60 人)、参加予定国数 17 か国。

◆第 21 回国際純粋・応用物理学連合総会(9 月 20 日～25 日)

物理学を発展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として奈良市(奈良県新公会堂)において開催される。

参加予定人数 300 人(国外 150 人、国内 150 人)、参加予定国数 41 か国。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木 7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話 03(3403)6291(代)

支部だより

北陸支部 支部大会講演募集——平成5年度電気関係学会北陸支部連合大会——

- 期 日** 平成5年9月29日(水), 30日(木)
29日(水) 一般講演, 特別講演(15時30分), 懇親会(18時)
30日(木) 一般講演
- 会 場** 富山県立大学工学部(富山県射水郡小杉町黒河)
JR小杉駅前よりタクシー5分(約800円), または徒歩約20分
- 特別講演** カオス現象とは 上田 皖亮(京大)
- 一般講演** 講演者 会員に限る(連名の場合は少なくとも一名は会員のこと).
所属支部, 発表件数は制限しない. ただし, 実行委員会において必要と認めたときは適宜処理することがある.
講演内容 最近行った研究, 工事報告, 現場試験報告, 新製品の紹介など.
講演時間 12分(質問時間を含む).
講演予稿 オフセット印刷(B5判)による.
1) 応募原稿は必ず所定の用紙(1枚:2156字)を使用すること.
2) 原稿用紙は無料, 申込先は講演申込先と同じ.
- 講演申込費** 論文1件につき3,000円. ただし, 講演者が学生会員の場合, 2,000円とする.
(講演申込時に納入のこと, 郵便振替に限る. 納入後は原則として払い戻しはしない).
講演者には別刷30部贈呈(無料)
- 講演申込締切** 講演申込書および郵便振替の払込証明書(写しでも可)を同封し, 8月16日(月)までに送付すること.
- 原稿締切** 8月31日(火)必着のこと. 期限後の到着は受理しない.
- 講演申込先** 939-03 富山県射水郡小杉町黒河
富山県立大学工学部電子情報工学科内 電気関係学会北陸支部連合大会実行委員会
Tel. (0766) 56-7500 (ext.494~6) Fax. (0766) 56-8023 (直通), (0766) 56-6172 (学科事務室)

中国支部 支部大会講演募集——平成5年度電気・情報関連学会中国支部連合大会——

- 期 日** 平成5年10月24日(日) 9:00~17:00
- 会 場** 広島電機大学(広島市安芸区中野6-20-1)
- 講演者** 電気・情報関連学会会員に限る. ただし, 連名者には会員以外の方を含んでも差支えない.
- 講演内容** 最近行った研究, 計画および工事報告, 現地試験報告, 新製品紹介など.
- 講演方法** 講演時間は, 1件13分以内(質疑応答3分を含む). ただし, 大会進行の都合により変更することがある.
講演は原則としてOHPを使用すること(ただし, 必要によりスライドを希望する方は, 講演申込み時に申し出ること. なお, 掛図は使用できない).
- 講演申込みと原稿提出**
- (1) はがきで, 下記申込先に「講演申込書」, 「講演原稿用紙」および「原稿の書き方」を件数明示のうえ請求すること. ただし, 同一人による講演は1件に限る.
 - (2) 「講演申込書」および「講演原稿」は講演申込料(郵便振替)を添えて下記申込先宛8月20日(金)必着.
 - (3) 「講演原稿」はオフセット印刷するため必ず所定の原稿用紙を使用し, 黒インクまたはタイプで作成すること(ワープロで作成する場合は縦・横の制限を守り, かつ, 鮮明な原稿とすること). また原稿は図面, 表を含み1件1頁または2頁とする.
- 講演申込料** 講演1件1頁の場合2,800円(含論文集代) 講演1件2頁の場合3,500円(含論文集代)
なお, 講演者には事前に論文集1部, 別刷30部を送ります.
- 申込先** 730 広島市中区大手町2-6-32 NHK広島放送局内 テレビジョン学会中国支部
- 論文集予約** 1部2,800円(送料とも)8月27日(金)までに代金を添えて上記申込先宛送ること. 大会当日での販売部数には限りがあるので, 確実に入手されたい方は予約をすること.
- 特別講演** 衛星による諸情報 高木 幹雄(東大)

- 懇親会** 10月24日(日)特別講演終了後、会費3,500円
はがきで、**10月15日(金)**までに上記申込先に申し込む。会費は当日受付で支払うこと。
- 交通案内** JR(西日本)山陽本線中野東駅下車(徒歩10分)(広島駅～中野東駅間の所要時間15分)
(宿泊案内)各自、直接申し込むこと。
- 広島駅周辺**
広島ステーションホテル(広島市南区松原町2-37 Tel.(082)262-3201)
広島ターミナルホテル(広島市南区松原町1-5 Tel.(082)262-1111)
広島ガーデンパレス(広島市東区光町1-15 Tel.(082)262-1122)
- 広島市内**
広島セントラルホテル(広島市中区銀山町1-8 Tel.(082)243-2222)
三井ガーデンホテル広島(広島市中区中町9-12 Tel.(082)240-1131)
ホテル法華クラブ(広島市中区中町7-7 Tel.(082)248-3371)
- 海田市駅周辺**
海田シティホテル(広島市安芸区船越南3-1-30 Tel.(082)823-9111)
- 問合せ先** テレビジョン学会中国支部事務局 佐々木博明または尾上精一
Tel.(082)242-3443, Fax.(082)242-3453

四国支部 支部大会講演募集——平成5年度電気関係学会四国支部連合大会——

- 期 日** 平成5年10月15日(金)
- 会 場** 徳島大学総合科学部(徳島市南常三島町1-1)
- 講演者** 電気関係6学会の会員(学生会員を含む)に限る。
- 講演内容** 最近行った関係学会に関連のある研究、調査、設計、開発、工事報告、現地試験報告などで学術的価値があるもの。
- 講演方法** 講演は、1人1件に限る。講演時間は質疑応答を含め10分とする。
- 発表部門** 応募論文は図面、写真等を含めて1件1ページ(論文仕上がりサイズはA4:2068文字)とする。
「基礎」、「放電物理」、「電力」、「電気機器」、「パワーエレクトロニクス」、「照明・電熱」、「計測」、「制御」、「電子回路」、「計算機」、「材料」、「通信」、「テレビ・画像処理」、「ME(医用工学)」、「情報処理基礎」、「情報処理応用」、「その他」。(発表部門は実行委員会にて変更する場合がある)
- 使用言語** 論文および発表言語は、日本語または英語とする。
- 講演参加費** 1件2,000円(大会参加費、別刷30部の代金を含む)または3,000円(大会参加費、別刷30部および論文集の代金を含む)。

原稿用紙請求方法および投稿方法

論文集はオフセット印刷するため、実行委員会所定の用紙を使用のこと。必要部数を明記し、返信用宛名用紙(縦10cm×横6cm程度の用紙に返信先を縦書きしたもの)および返信用切手を添え申し込むこと(1件:120円, 2件:175円, 3～6件:250円, 7～12件:360円, 13件以上:670円)。配布された「原稿の書き方」により作成し、「講演申込書」とともに事務局あて投稿すること。講演参加費は郵便振替により**8月20日**までに送金すること。

郵便振替口座番号:徳島1-24690, 加入者名:電気関係学会四国支部連合会

申込み・投稿先

770 徳島市南常三島町2-1 徳島大学工学部電気電子工学科内
電気関係学会四国支部連合大会実行委員会事務局
Tel.(0886)23-2311(ext.5414, 4652, 4654), Fax.(0886)54-9632

投稿期限 8月16日(月)必着のこと。

九州支部 支部大会案内——電気関係学会九州支部第 46 回連合大会

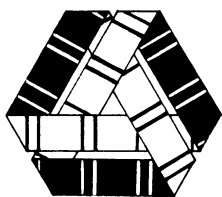
期 日 平成 5 年 10 月 1 日（金），2 日（土）
会 場 鹿児島大学教養部（鹿児島市郡元 1-21-40）
一般講演 10 月 1 日（金），2 日（土）
特別講演 10 月 1 日（金）15：30～17：00 教養学部 101 講義室
幕末集成館事業と維新 原口 泉（鹿児島大）
懇親会 10 月 1 日（金） 17：30～ 大学生協教育学部店 会費 5,000 円（同伴家族・学生 3,000 円）
見学会 9 月 30 日（木） 14：00～18：30 見学先 九州電力川内原子力発電所
集合場所 当日 13：50 JR 西鹿児島駅前
申込先 鹿児島大学工学部電気電子工学科事務室 Tel. (0992) 85-8432
人 数 先着 30 名限り，会費無料

- 備 考
- (1) 論文集申込 論文集：1 部 3,000 円 予約を原則としますので，締切日[8 月 20 日(金)]までに必ず代金を添えてお申し込みください。なお，郵送希望者は 1 冊につき送料 450 円を添えてお申し込みください。発送は大会終了後になります。
 - (2) 懇親会希望者は 9 月 20 日（月）までに代金を添えてお申し込みください。
 - (3) 論文集および懇親会申込先
812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部電気工学教室内 電気関係学会九州支部連合会
Tel. (092) 641-1101 (ext. 5300)
振替口座番号 福岡 8-33001 加入者名 電気関係学会九州支部連合会
なお，振替口座ご利用の際には郵便局にて発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。
 - (4) 駐車場の余裕がありませんので，車での来学はご遠慮ください。
 - (5) 宿泊のご案内
宿泊月日：平成 5 年 9 月 30 日～10 月 2 日
宿泊料金：1 泊朝食付き 税金・サービス料込みのご 1 名様の料金

種 別	記 号	ホテル・旅館名	S／シングル	T／ツイン	和室／定員
S	1	鹿児島サンロイヤルホテル	12,500	10,000	———
	2	鹿児島東急ホテル			
A	3	チサンホテル	10,000	9,000	———
	4	レクストンイン鹿児島			
	5	鹿児島東急イン			
B	6	パレスイン鹿児島	8,500	7,000	———
	7	ニューカゴシマ			
	8	パルセスイン鹿児島			
C	9	ホテルタイセイアネックス	6,500	6,000	———
	10	ホテルユニオン			
	11	ホテル法華クラブ			
R	12	春元旅館	———	———	6,500

申込締切：8 月 31 日（火）までに直接下記にお申し込みください。
890 鹿児島市中央 1-1 JR 九州 ジョイロード西鹿児島支店
「電気関係学会九州支部第 46 回連合大会」係（担当：神園）
Tel. (0992) 53-2201～2 Fax. (0992) 54-3405

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（*：本年既掲載分，**：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 72 円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1.開催日, 2.場所, 3.問合せ先, 4.その他

国際会議

ICAT '93—第 3 回人工現実感とテレグジスタンス国際会議 (032)

1. 1993 年 7 月 6 日（火）～7 日（水）
2. スフィアメックス（東京都品川区東品川）
3. (株)日本工業技術振興協会
Tel. (03) 3584-0207, Fax. (03) 3585-9369
4. 参加費：一般 50,000 円，研究会会員 45,000 円

平成 5 年度情報化月間行事国際シンポジウム「インフォテック '93」 (033)

1. 1993 年 11 月 10 日（水）～12 日（金）
2. 毎日新聞ビル
3. (財)関西情報センター 情報化推進部
Tel. (06) 346-2541, Fax. (06) 346-2443
4. 参加費：一般 41,200 円，大学 20,600 円

Workshop on Mobile Multimedia Communications (034)

1. 1993 年 12 月 8 日（水）～10 日（金）
2. 早稲田大学国際会議場
3. 早稲田大学理工学部 MoMuC-1
準備委員長 富永 英義
Tel. (03) 3203-4141 (ex. 73-3419)

1994 ISSCC—IEEE Int'l. Solid-State Circuits Conf. (035)

1. 1994 年 2 月 16 日～18 日
2. サンフランシスコ，マリオットホテル
3. ISSCC アジア委員会幹事 富士通研究所 厚木研究所
集積システム研究部 土屋 真平
Tel. (0462) 50-8843, Fax. (0462) 50-8842
4. 論文投稿締切：1993 年 9 月 15 日（水）
対象論文：集積回路全般（デジタル，アナログ，メモリ，信号処理および通信，通信，一般回路技術，先端回路技術）

VNIS '94—第 5 回自動車ナビゲーション・情報システム国際会議 (036)

1. 1994 年 8 月 31 日（水）～9 月 2 日（金）
2. パシフィコ横浜
3. 東京大学生産技術研究所第 3 部 VNIS' 94 実行委員長 高羽 禎雄
Tel. (03) 3402-6231
4. 参加費：45,000 円

国内会議

第 51 回産業用ロボット利用技術講習会

1. 平成 5 年 7 月 15 日（木）～16 日（金）
2. 大阪府社会福祉会館（大阪市中央区）
3. (株)日本産業用ロボット工業会
Tel. (03) 3434-2919, Fax. (03) 3578-1404
4. 参加料：会員 25,000 円，一般 26,000 円

講習会「カオス力学系に現れる秩序，無秩序，そして複雑さへの挑戦」

1. 平成 5 年 8 月 10 日（火）～12 日（木）
2. 野口英世記念会館ホール（東京都新宿区大京町）
3. (株)日本物理学会 講習会係
Tel. (03) 3434-2671
4. 聴講料：会員 10,000 円，学生 4,000 円，非会員 15,000 円

高専情報処理教育研究委員会第 13 回研究発表会

1. 平成 5 年 8 月 24 日（火）
2. 三島グランドホテル（三島市大宮町）
3. 群馬工業高等専門学校 情報処理教育センター
Tel. (0272) 51-4291, Fax. (0272) 51-8995

第 5 回テクニカルコミュニケーションシンポジウム

1. 平成 5 年 8 月 26 日（木）～27 日（金）
2. 工学院大学（新宿区西新宿）
3. テクニカルコミュニケーター協会
Tel. (03) 5377-0765, Fax. (03) 5377-0763

第 199 回講習会「急成長が期待される液晶ディスプレイと製造装置」

1. 平成 5 年 9 月 2 日（木）
2. 東京工業大学百年記念館（目黒区大岡山）
3. (株)精密工学会
Tel. (03) 3362-1979, Fax. (03) 3367-0994
4. 参加費：会員 28,000 円，学生会員無料，非会員 42,000 円

平成 5 年度第 2 回 OR セミナー「離散系シミュレーション」

1. 1993 年 9 月 10 日（金）
2. 早稲田大学理工学部（新宿区大久保）
3. (株)日本オペレーションズ・リサーチ学会
Tel. (03) 3815-3351, Fax. (03) 3815-3352
4. 参加費：正会員 22,000 円，学生会員 5,000 円，非会員 30,000 円

画像計測シンポジウム—流れ計測とその応用—

1. 平成 5 年 9 月 17 日（金）～18 日（土）

- ときわ湖水ホール（宇部市）
- 山口大学工学部 ハイテクシンポジウム山口事務局
Tel. (0836) 31-5100 (ex. 2232), Fax. (0836) 35-9403
- 参加料：会員 3,000 円，学生 1,000 円

講習会「カオス理論の基礎と工学への応用」

- 平成 5 年 9 月 28 日（火）
- 大阪大学工業会館（大阪市北区）
- 日本ファジィ学会事務局
Tel. (045) 212-8253, Fax. (045) 212-8256
- 参加費：会員 20,000 円，学生会員 7,000 円，非会員 30,000 円

セミナー「遺伝アルゴリズム/ニューラルネット/ファジィの新しい展開を探る」

- 1.2. 〈大阪〉
1993 年 9 月 29 日（水）～30 日（木）
なにわ会館（大阪市天王寺区）
〈東京〉
1993 年 10 月 5 日（火）～6 日（水）
ダイヤモンド社（千代田区霞ヶ関）
- システム制御情報学会
Tel. (075) 751-6413, Fax. (075) 751-6037
- 参加料：会員 35,000 円，学生 15,000 円，非会員 50,000 円（各々）

第 3 回「基礎研究の振興と工学教育+シンポジウム

- 平成 5 年 10 月 4 日（月）
- 建築会館（東京都港区芝）
- （社）日本工学会
Tel. (03) 3475-4621
- 参加費：1,000 円

'93 視覚と空間認知への総合的アプローチシンポジウム

- 平成 5 年 10 月 7 日（木）～8 日（金）
- けいはんなプラザ（京都府精華町）
- （株）けいはんな
Tel. (07749) 5-5111, Fax. (07749) 5-5116
- 参加費：一般 15,000 円，大学・国立機関 10,000 円，学生 3,000 円

第 11 回流体計測・第 8 回流体制御合同シンポジウム

- 平成 5 年 11 月 24 日（水）～25 日（木）
- 明治大学大学院南講堂（東京都千代田区神田駿河台）
- （財）計測自動制御学会
Tel. (03) 3814-4121, Fax. (03) 3814-4699
- 講演申込締切：平成 5 年 8 月 20 日（金）

第 12 回光波センシング技術研究会

- 平成 5 年 12 月 15 日（水）～16 日（木）
- 川崎市産業振興会館
- 連企画気付 光波センシング技術研究会事務局
Tel. (03) 3433-2543, Fax. (03) 3433-3904
- 講演申込締切：平成 5 年 9 月 10 日（金）

教官募集



○大学等情報関係教官募集

岩手大学工学部情報工学科

- 募集人員 教授，助教授各 2 名
専門分野 情報工学または情報科学に関するいずれかの分野
応募資格 博士号取得者および専門分野で十分な業績を有し，大学院で研究指導できる方
着任時期 平成 5 年 11 月 1 日以降のなるべく早い時期
提出書類 履歴書，発表論文リスト，論文別刷（コピー可），推薦書または応募者について問合せ可能な方の氏名・所属・連絡先（2 名），現在までの研究および着任後の研究計画を 1500 字以内にまとめたもの。
応募締切 平成 5 年 7 月 30 日
送付先 020 盛岡市上田 4-3-5
岩手大学工学部長 丹野和夫 「情報工学科教官公募」と朱書き書留。
問合せ先 工学部情報工学科 Tel. (0196) 23-5171
主任 三浦 守 (ext. 2658)，または
副主任 太田原功 (ext. 2655)

九州工業大学情報工学部機械システム工学科

- 募集人員 助教授 1 名
所属学科 機械システム工学科 生産システム大講座
専門分野 生産システム工学関連分野（システム工学，メカトロニクス，ロボテクス，制御工学など）
担当科目 生産システム工学，生産システム実験，システム動力学，知能ロボット
応募資格 博士号取得者で 36 歳未満の方
着任時期 平成 6 年 4 月 1 日
提出書類 履歴書，研究業績リスト，主要研究論文別刷（コピー可）。
応募締切 平成 5 年 8 月 31 日必着
送付先 820 飯塚市川津 680-4
九州工業大学情報工学部（庶務係気付）情報工学部長 山川 烈
問合せ先 機械システム工学科主任 長坂長彦
Tel. (0948) 29-7766，または
同 選考委員長 豊田利夫 Tel. (0948) 29-7768

鳥取大学工学部電気電子工学科

- 募集人員 助教授または講師 1 名
専門分野 情報，制御，回路システム，通信，計算機応用のいずれか。
応募資格 博士号取得者で大学院での指導が可能な方（ただし，30～40 歳くらいが望ましい）
着任時期 決定後なるべく早い時期
提出書類 履歴書，研究業績一覧，主要論文の別刷（コピー可），推薦書（自薦の場合は本人に関する所見を求めうる人の氏名）。
応募締切 平成 5 年 8 月 31 日（適任者が決定次第，締め切ることがあります。）
送付先 680 鳥取市湖山町南 4-101

鳥取大学工学部電気電子工学科主任 副井 裕
工学部電気電子工学科電気回路システム講座
副井 裕 Tel. (0857) 31-5234 Fax. (0857) 31-0880
大北正昭 Tel. (0857) 31-5231 Fax. (0857) 31-0880

津山工業高等専門学校

募集人員 教授 1 名
所 属 情報工学科
専門分野 電子、情報工学およびその関連分野
応募資格 専門分野に業績があり、教育、研究に熱心な方で、学位を有する 57 歳くらいの方
着任時期 平成 6 年 4 月 1 日
提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷
応募締切 平成 5 年 8 月 31 日
送 付 先 708 津山市沼 624-1
津山工業高等専門学校庶務課人事係 「情報工学科教官応募」と朱書し書留。
情報工学科教授 三木成彦
問合せ先 Tel. (0868) 22-2191 (代) Fax. (0868) 23-3964

琉球大学理学部物理学科

募集人員 助教授 1 名
所 属 計算機科学講座（環境情報科学科（仮称）新設の計画があり、それが実現の際には当講座はそちらに移行の予定）
専門分野 広い意味での計算機物理学、コンピュータ活用または開発により理学における物理学関連の研究・教育を行う。
応募資格 博士号取得者で、コンピュータ活用による物理学の教育または研究の経験がある 40 歳前後の方が望ましい。将来環境情報科学科（仮称）が新設された場合には新学科に移ることを承諾する方。
着任時期 決定後できるだけ早い時期
提出書類 履歴書、研究業績リスト、健康診断書、これまでの研究概要および今後の研究計画書、主要論文の別刷またはコピーおよびそれぞれの要約、教育についての抱負、教育経験がある場合はその概要、推薦書。
応募締切 平成 5 年 8 月 31 日
送 付 先 903-01 沖縄県中頭郡西原町千原 1
琉球大学理学部物理学科主任 細谷将彦 「計算機科学講座応募書類在中」と朱書し書留。
問合せ先 理学部物理学科主任 細谷将彦
Tel. (098) 895-2221(ext. 2635)
学科事務室 (ext. 2634)
Fax. (098) 895-2247

明治学院大学一般教育部

募集人員 助教授または専任講師 1 名
担当科目 一般教育科目「情報処理」ただし、講義は白金校舎（港区）での第二部（夜間）も担当。
専門分野 情報科学
勤務地 横浜および白金校舎
応募資格 博士号取得者または専門分野において同等の業績を有するもの
着任時期 平成 6 年 4 月 1 日
提出書類 履歴書、研究業績表、推薦書または自薦書（研究計画書を含む）、健康診断書。
応募締切 平成 5 年 9 月 11 日必着
送 付 先 244 横浜市戸塚区上倉田町 1518
明治学院大学一般教育部長 小泉智義 「情報処理担当教員応募書類在中」と朱書し書留。
庶務課庶務係 Tel. (045) 863-2007
問合せ先

神奈川大学理学部情報科学科

募集人員 教授、助教授または専任講師 1 名
専門分野 数学、情報科学など
担当科目 数学および関連する科目
応募資格 博士号取得者で、専門分野の教育・研究に相当の業績があり、学部における教育に熱意のある方
着任時期 平成 6 年 4 月 1 日
提出書類 履歴書、研究業績目録、主要論文別刷（コピー可）
応募締切 平成 5 年 9 月 25 日必着
送 付 先 259-12 平塚市土屋 2946
神奈川大学平塚キャンパス（教務課気付）理学部長 寺本俊彦 「理学部教員応募書類（数学および関連する科目）」と朱書し書留。
理学部情報科学科主任 土井英和
Tel. (0463) 59-4111 (ext. 2705)
問合せ先

神戸山手女子短期大学生活学科

募集人員 助教授または講師 1 名
所属部門 生活学科
担当科目 テキスタイルデザイン実習、色彩デザイン、生活文化論、ゼミ
応募資格 大学院修士課程修了者または、それ以上の教育研究歴を有し、かつ、コンピュータによるテキスタイルデザイン教育のできる方。
着任時期 平成 6 年 4 月 1 日
提出書類 履歴書、研究業績目録、推薦書、主要論文の別刷またはコピー（博士または修士論文を含む）、研究業績概要（1000 字）、主な担当科目（テキスタイルデザイン実習、色彩デザイン）の講義概要（1000 字程度）。
応募締切 平成 5 年 9 月 30 日（消印有効）
送 付 先 650 神戸市中央区諏訪山町 3-1
神戸山手女子短期大学生活学科主任 押野礼子「教員応募書類在中」と朱書し書留。
生活学科主任 押野礼子
問合せ先 Tel. (078) 351-7181 Fax. (078) 371-4972

金沢大学経済学部経済学科

募集人員 専任講師または助教授 1 名
担当科目 ・学部：情報科学、情報科学演習、情報処理実習
・大学院：情報科学特論、情報科学演習
応募資格 35 歳程度まで
着任時期 平成 6 年 1 月
提出書類 履歴書、業績一覧表、主要論文 3 点以内（抜刷り、複写可、各論文 400 字程度の概要を付すこと）、今後の研究および教育プラン（字数自由）。
応募締切 平成 5 年 9 月 30 日
送 付 先 920-11 金沢市角間町 金沢大学経済学部長 「経済学科 経営・情報科学講座 情報科学専任教員応募書類在中」と朱書し書留。
経済学部長 橋本哲哉
Tel. (0762) 64-5406
Fax. (0762) 64-5444
問合せ先

山梨大学工学部電子情報工学科

募集人員 助手 1 名
専門分野 通信処理、電磁環境、ネットワーク、およびそれらに関係するシステム、もしくは上記に関連した境界分野。
応募資格 博士号取得者または取得の目的のある方、30 歳未満が望ましい。国籍・性別不問。
助手として実験・演習および卒論などを指導できること。
着任時期 平成 6 年 4 月 1 日
提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷、推薦状

応募締切
送付先

(もしくは所見を求めることができる人の連絡先)。
平成5年9月30日
400 甲府市武田4-3-11

問合せ先

山梨大学工学部電子情報工学科教室主任 鈴木嘉彦
「教官公募書類」と朱書き書留。
Tel. (0552) 52-1111 (ext. 5053)
Fax. (0552) 54-1708

雑 報



○郵政省通信総合研究所選考採用研究職員募集

募集人員 8名程度
研究分野 ①地球環境計測, 宇宙環境予報分野(地球物理, 宇宙物理, 大気科学等)
②情報処理, バイオ知的通信分野(ヒューマンインタフェース, 音声・画像処理, 生体機能, 分子素子等)
③超電導・光技術による超高速通信, 光計測分野(量子エレクトロニクス, 物性・材料, 光技術等)
応募資格 35歳未満かつ採用の時点で博士の学位を有していること(外国人でも可)
待遇 国家公務員試験I種採用者と同等
採用時期 原則として, 平成6年4月1日
応募締切 平成5年9月10日
提出書類 履歴書, 研究経歴書, 論文リストおよび主要論文別刷
問合せ先 184 小金井市貫井北町4-2-1
郵政省通信総合研究所企画部企画課長
Tel. (0423) 27-7457 Fax. (0423) 27-7458
その他 公募によらない個別選考等もありますので, 詳細はお問い合わせください。

○第2回 大川賞候補者推薦依頼

(財)大川情報通信基金の設立5周年を記念して, 平成4年5月に創設されたもので, 情報ならびに通信分野に関する研究, 技術開発および事業において顕著な社会的貢献のあった方を表彰する。

大川賞は年間1件を対象として, 個人(故人は除く)を表彰する。受賞者には賞状と副賞として金メダルと賞金1千万円を贈る。

推薦方法 所定の「大川賞候補者推薦書」に必要事項を記入のうえ, 下記あてに送ってください。
推薦締切 平成5年7月31日(土)
問合せ先 107 港区赤坂1-12-32 アーク森ビル31階
(株)CSK内(財)大川情報通信基金「大川賞」事務局(松本, 前川)
Tel. (03) 3505-6048 Fax. (03) 3582-2826

○第9回 日刊工業新聞技術・科学図書文化賞募集

対象図書 工業技術および自然科学に関する図書。ただし平成4年8月1日から平成5年7月31日までに国内で初版が刊行された日本人の著作(外国語による図書, 雑誌, 研究資料等は除く)。

応募

所定の申込書に応募図書1冊を添えて申し込みください。応募される図書は何件でも受け付けます。

応募締切

平成5年7月31日

発表

平成5年10月中旬, 日刊工業新聞紙上で発表。
平成5年11月上旬, 東京で, 最優秀賞1点のほか, 優秀賞数点について, 著者, 出版社を一括表彰します。最優秀著作には賞金30万円と表彰盾, 優秀著作には賞金20万円と表彰盾を, また出版社には賞状とトロフィを贈呈します。

応募先及び

102 千代田区九段北1-8-10

問合せ先

日刊工業新聞社編集局図書文化賞係
Tel. (03) 3222-7229・7072

○第1回(平成5年度)日産科学賞候補者推薦依頼

(財)日産科学振興財団は設立20周年を記念し, 当該研究分野を代表する優れた中堅・若手研究者の業績を褒賞する「日産科学賞」を創設した。

この賞は原則として毎年2名とし, 受賞者には賞状とメダルおよび副賞として研究奨励金500万円を贈る。

候補者対象 自然科学分野(人文・社会科学分野との複合領域を含む)で, 下記により学術文化の向上発展に大きな貢献をした満50歳未満(平成6年3月末時点)の公的研究機関に所属する研究者とします。

a) 学術研究上重要な発見をした

b) 新しい研究分野を開拓した

推薦手続

学会の推薦を必要とするので, 財団所定の推薦用紙に必要事項を記入のうえ学会へお申し出ください。

推薦締切

平成5年8月10日(火)必着

問合せ先

104 東京都中央区銀座6-17-2 木挽館
(財)日産科学振興財団科学賞係
Tel. (03) 3543-5597

○第20回 日産学術研究助成募集

助成対象 次に掲げる研究分野の基礎研究, および応用研究とします。若手・中堅研究者の積極的な応募を期待します。

1. 人間と機器との係わりに関する研究(重点助成課題)
2. 資源・エネルギーに関する研究
3. 自然環境および都市環境に関する研究
4. 新しい機能材料の研究
5. 生命現象に関する研究

助成要約

研究の種別	一般研究助成		奨励研究助成
	(A)	(B)	
研究の性格	研究が長期にわたる学際的グループ研究 (共同研究に限る)	大きな発展の可能性を内蔵する課題の前段階的研究あるいは短期間の研究 (共同研究に限る)	若手研究者(概ね35歳以下)による萌芽的・独創的研究(個人研究)
1件当りの金額	1,500万円限度	300万円限度	200万円限度

応募要領

学会の推薦を必要とするので, 所定の申請用紙に

より学会へお申し出ください。
 応募締切 平成5年8月10日(火) 必着
 問合せ先 (財)日産科学振興財団研究助成係 Tel. (03) 3543-5597

○第7回「日本IBM科学賞」候補者募集

対象概要 物理・科学・コンピュータサイエンス・エレクトロニクスの分野で研究活動を行っている国内の大学あるいは公的研究機関に所属する45歳以下(8月15日現在)の基礎研究者(国籍は問わない)
 賞金等 賞状と副賞のメダルおよび賞金300万円、6名(6件)
 推薦方法 所定の推薦書による
 問合せ先 106 港区六本木3-2-12
 日本アイ・ビー・エム(株)日本IBM科学賞事務局社会貢献 HQ-D17
 Tel. (03) 3586-1111 (ext. 4318) 根本

○日本証券奨学財団「平成5年度研究調査助成」募集

対象者 大学において学術文化の研究調査に従事している個人またはグループとし、その研究者の年齢は55歳以下とする。なお、グループは、大学間にまたがってよい。また、その代表者またはこれに準ずる者の年齢は55歳以下に限らない。

研究調査分野の範囲

- (1) 法学、経済学および社会学については、国際化や科学技術の高度化にともなって生ずる諸問題など、現在的重要課題に関する研究を重視する。
- (2) 理学および工学については、新素材および環境改善に関する萌芽的研究を重視する。

助成金の額 平成5年度の助成金総額は、6,000万円とし、研究調査1件につき100万円程度の助成を行う。なお、特に必要と認められる場合は、300万円の範囲内で助成を行う。

応募締切 平成5年8月20日
 問合せ先 103 東京都中央区日本橋茅場町1-5-8
 東京証券会館3階 (財)日本証券奨学財団
 Tel. (03) 3664-7113

○C&C振興財団「国際会議論文発表者助成候補者」募集

海外で開催される国際会議において、半導体デバイス技術、情報処理技術、電気通信技術およびこれらの融合する技術分野に関する論文発表をする研究者に対して、往復の渡航費と滞在費を補助します。

助成金額 10万円～28万円(なお、会議開催地により増減します。)

応募資格 ①国内の大学または国立およびこれに準ずる研究所に在籍する研究者(原則として、40歳以下)。
 ②国際会議での論文採用が原則として確定していること。
 ③経済的必要度が高いこと。

募集方法 財団所定の推薦書に従い、候補者の所属大学または機関の上司の推薦を得て、財団事務局まで直接提出してください。推薦書の入手をご希望の方は、財団事務局までお申し出ください。

募集締切

区分	募集締切日	助成対象の国際会議の期間
平成5年度後期	平成5年8月27日	平成5年11月1日

～平成5年5月末日
 平成6年度前期 平成6年2月25日 平成6年5月1日
 ～同年11月末日

問合せ先 108-01 東京都港区芝5-7-1
 (財)C&C振興財団(担当御宿)
 Tel. (03) 3457-7711 Fax. (03) 3798-6599

○第9回電気通信普及財団「テレコムシステム技術賞」論文募集

テーマ 電気通信およびそれに関連する情報処理についての工学的技術的観点からの研究(情報通信の基礎理論の研究、情報通信システムの応用など。ただし、材料・素子に関するものを除く。)

テーマ例 情報ネットワーク、情報通信理論、情報処理、通信・信号処理、通信ソフトウェア・プロトコル、情報セキュリティ、電気通信の標準化、知識処理の通信への応用など。

対象論文 前記テーマについて書かれた論文・公開された資料(学会誌、国際会議(標準化も含む)、雑誌等に発表ないし採録が決定したもの)または著書で、次に示す事項に該当するもの。

- ・情報通信の基礎理論の研究
- ……最近10年以内に発表されたもの
- ・情報通信システムの研究・開発・応用
- ……最近2年以内に発表されたもの
- ・国際標準化活動にかかわるもの
- ……最近5年以内に電気通信に関する国際標準として採用された、または標準化の方向付けに貢献した、独創性のある資料

表彰 入賞5論文以内を選定し、1論文につき賞金50万円を進呈する。なお、若干の奨励賞(賞金30万円)を選定することがある。

発表 平成6年3月、新聞または雑誌にて発表。
 応募対象者 原則として論文または著書を執筆した個人。自薦、他薦は問いません。

応募締切 平成5年9月30日までに到着するように論文、論文掲載の出版物または著書を2部お送りください。

注意事項 応募の際には、800字以内の本文要旨または推薦文を添付、氏名(フリガナ)・年齢・現住所・電話番号を明記のこと。なお、すでに学会賞などの賞を受けた作品の応募はご遠慮ください。

応募先及び問合せ先 105 港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル
 (財)電気通信普及財団 Tel. (03) 3470-7518

○ブレインサイエンス振興財団各種研究助成候補者募集

ブレインサイエンス研究分野で、各種の候補者の推薦を募集しています。詳細は下記に問い合わせください。

1. 研究助成候補者
2. 塚原伸晃記念賞受賞候補者
3. 海外派遣研究助成候補者
4. 海外研究者招聘助成候補者

推薦締切 1.2.は平成5年11月30日(火)
 3.4.は平成6年1月11日(火)

問合せ先 104 東京都中央区八重洲2-6-20
 (財)ブレインサイエンス振興財団
 Tel. (03) 3273-2565

平成5年度役員

会 長	水野 幸男		
副 会 長	相磯 秀夫	平栗 俊男	
先 任 理 事	磯崎 澄	稲垣 康善	齊藤 忠夫
	土居 範久	箱崎 勝也	八賀 明
	林 弘	坂 和磨	松永 伍生
後 任 理 事	雨宮 真人	安西祐一郎	河岡 司
	久保 隆重	鈴枝 進	山本 昌弘
	弓場 敏嗣	米田 英一	
監 事	竹下 亨	高橋 延匡	
支 部 長	松本吉弘（関西），奈良 久（東北）		
	有川節夫（九州），山田 博（東海）		
	宮本衛市（北海道），小林康浩（中国）		
	野田松太郎（四国），武部 幹（北陸）		

学会誌編集委員会

委 員 長 箱崎 勝也
副 委 員 長 弓場 敏嗣
委 員 (基礎・理論分野)

長尾 確 井宮 淳 相田 仁
相場 亮 安倍 直樹 岩崎 一彦
大石 進一 大竹 和雄 大野 和彦
岡本 龍明 梶原 信樹 栗田多喜夫
小池 英樹 榊原 康文 塩谷 勇
島津 明 築添 明 土田 賢省
手塚 集 東条 敏 沼尾 正行
平川 秀樹 松井 正一 村上 昌己
横内 寛文 吉田 幸二

(ソフトウェア分野)

坂下 善彦 深澤 良彰 荒野 高志
飯島 正 石川 博 岩崎 英哉
内平 直志 宇都宮直樹 大澤 暁
甲斐 宗徳 北川 博之 小山田正史
関 俊文 高野 陽介 瀧口 伸雄
滝沢 誠 瀧塚 孝志 谷口 秀夫
寺田 実 中澤 修 本多 弘樹
松田 裕幸 真鍋 義文 宮崎 聡
森下 真一 吉田 和幸 脇田 建

(ハードウェア分野)

中田登志之 西田 健次 飯島 純一
伊藤 徳義 今井 明 小倉 敏彦
柏山 正守 北嶋 弘行 小池 汎平
佐藤 政生 佐藤洋一郎 清水 茂則
清水 俊幸 白男川幸郎 曾和 将容
瀧 和男 武田 保孝 中村 宏

速水 治夫 原田武之助 平岡 孝
平田 圭二 藤田 昌宏 村上 和彰
和田 幸一

(アプリケーション分野)

金子 俊一 岡田 謙一 五十嵐 智
稲岡 則子 上杉 利明 江原 暉将
大山 敬三 勝岡 義博 川上 英
喜多 泰代 澤井 秀文 菅原 研次
杉本 重雄 宝木 和夫 田中 衛
茶園 利昭 辻 秀一 鶴岡 邦敏
富井 規雄 富安信一郎 沼尾 雅之
馬場 健 廣瀬 正 深海 悟
水谷 博之 宮本 義昭 森田 啓義
山崎重一郎 吉野 利明

文献ニュース小委員会

委 員 長 本多 弘樹

副 委 員 長 内平 直志

委 員

* 勸励類

合田 憲人 赤津 雅晴 浦本 直彦
榎本 暢芳 小川 知也 小野寺民也
甲斐 宗徳 小林 隆 田中みどり
谷 聖一 堤 富士雄 坪井 俊明
鳥谷 憲司 中島 巳範 野尻 徹
野村 真吾 林 良彦 平澤 茂樹
広田源太郎 堀川 隆 松本 一教
味園 真司 宮内 美樹 山口 義一
山下 義行 李 相結 渡辺 美樹
* 佐伯 慎一 * 炭田 昌人 * 竹澤 寿幸
* 垂水 浩幸 * 乃万 司 * 藤井 茂樹
* 村上 昌己 * 横尾 真 * 渡部 卓雄